

長 惠 作 品 集



長 恵 (ちょうめぐむ) 1942—2020

広島県内の福祉施設にて、長年にわたり障害のある人たちの表現活動を支援。

パーキンソン病を患って勤務先を退職後、本格的に絵を描き始める。キャンバスは段ボール箱。

クリスチャンとして、自分の生き立ちを描いた詩画や、「天子」と呼ぶ独特な体型をした天使の絵画などを多数制作。

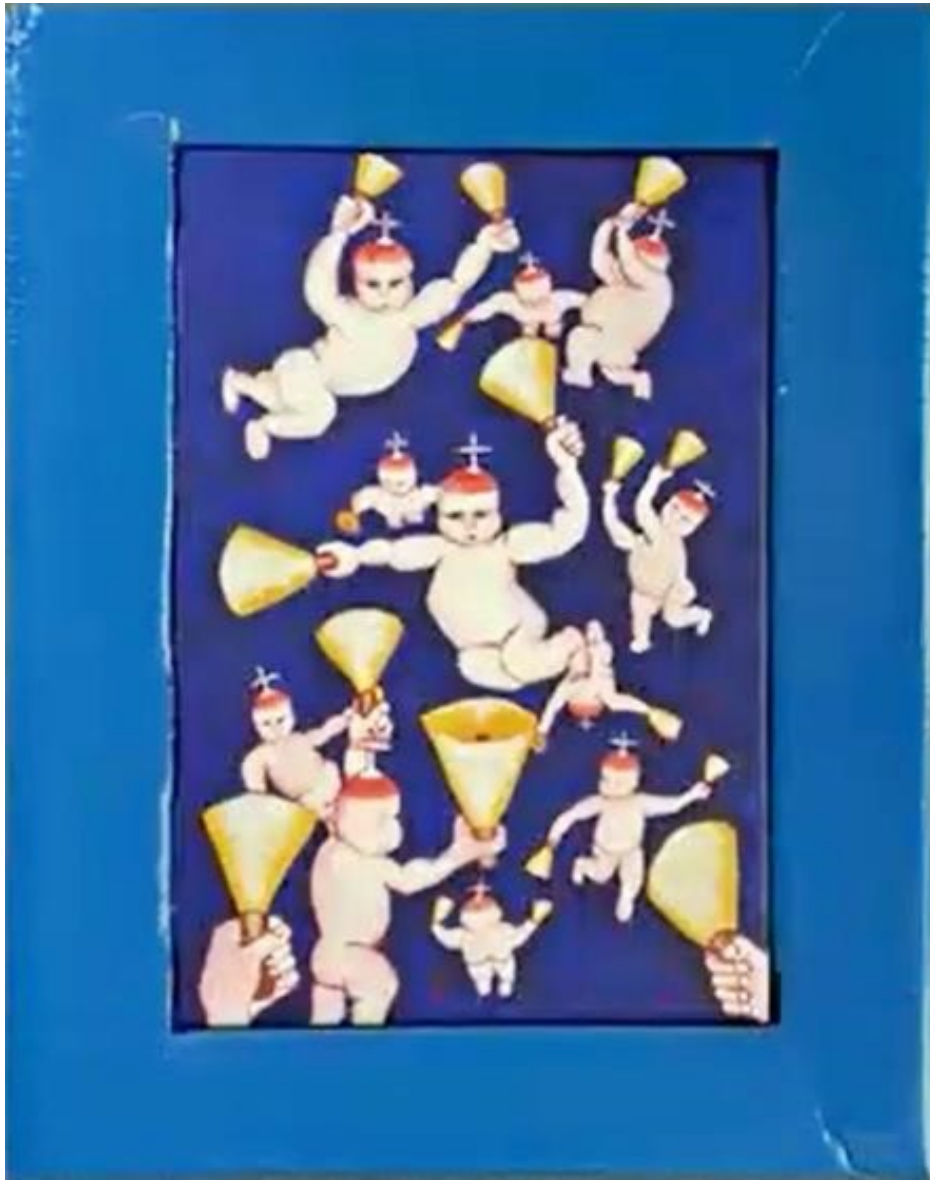
1 天子	2
2 教会関係	50
3 カーブ愛	65
4 その他 (自画像、富士山、立体作品、模写等)	71
5 「母ちゃんの泪」	86
6 「一枚の絵」	100
7 「ぴあの・リトル物語」	116
8 「人知れず表現し続ける者たちⅢ」	131
9 「別冊」(PDF版に限る)	(133)

※ 作品の掲載順はランダム

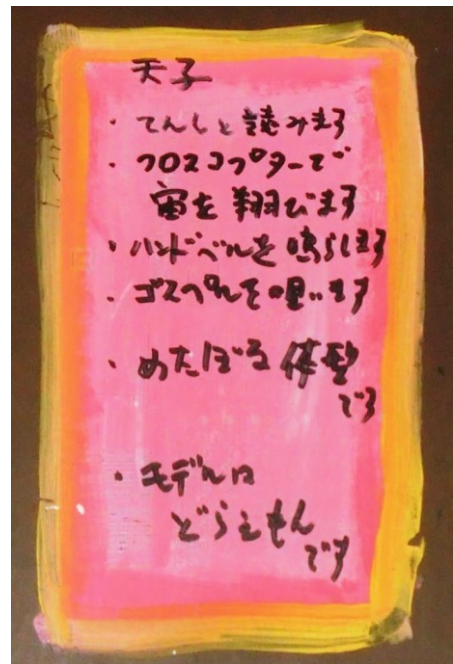
※ タイトルと製作時期がわかるものについては可能な限り表記

2021年10月1日 発行

天子



最初に描いた「天子」の絵





HAPPY NEW YEAR CONCERT
 (天子のハンドベル コンサート)
 2014.8.3
 711L 絵巻・92.5L 箱・950 x 320 x 920 mm
 MESUDAN GALLERY ③



天子の遊泳 2014/8/5



天子のステップ 2014/8/3

2014.8.3
 『天子のステップ』



翔べない天子 2014/8/13



2014
9.12 完
「天子のハシワ
・3人の自分」

3人の自分 2014/9/12



ウルトラ天子 レッド 円空A 宙へ帰る 2014/9/28



宙へ出発 円空B 2014/10



ウルトラ天使・ブルー 2014/10/17

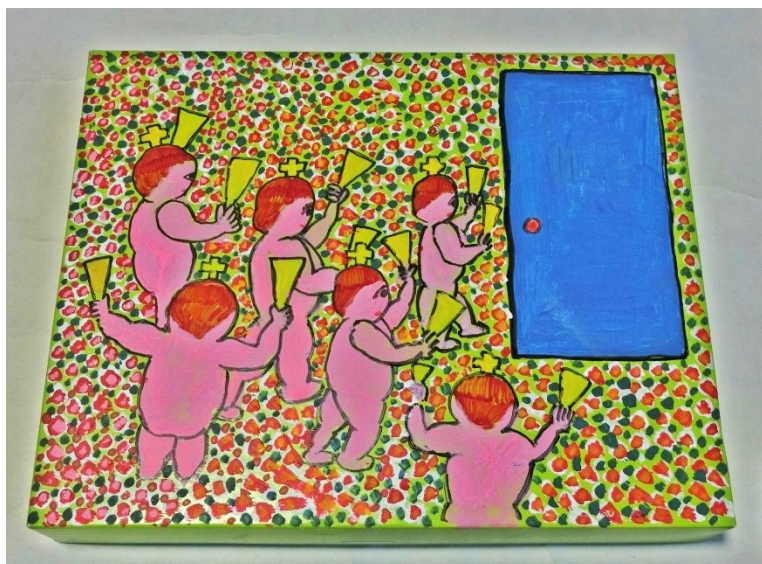


ウルトラ天使 2014/10/12



ウルトラ天子 出発OK 2014/10/29





さあ、ママのところへ -誕生- 2014/10/7

みんなママが決まった！



天子と赤ん坊 2014/10/10



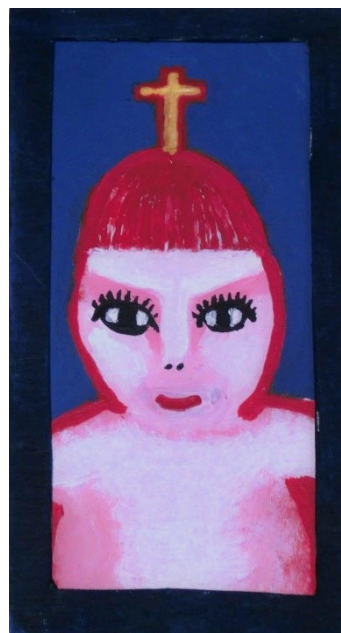
天子と赤ん坊一旅立（たびだち） 2014/10/21



白い月（三二） 2015/1/14



天子の「リーダー」 2015/1/25



ガンバル 天子アップ 2014/8/27



選ばれし者 2015/3/7



手いっぱいの中でハンドベル 2016/2/5



2016/3/14



こんな日もあるさ 2015/3/4



白い月 2015/1/21



心にびびく音色 2014/12/7



輪になって 2015/1/30



走る 2015/1/27



砂丘でダンス 2015/1/31



ソロ演奏 2015/1/28



天子が大きくなる 2015/2/16



お客を迎えて 2015/4/17



ブラックホール 2015/5/28



リンゴ祭 2016/3/12



月に向かって 2016/1/2





青い天子③ 2014/12/11



青い天使 2014/11/25
小さな虫が青色の紙を身にまとい天井から
吊り下がってた みの虫のように1mmの
小さな姿が天使に見えた



青い天子④ 2014/12/10



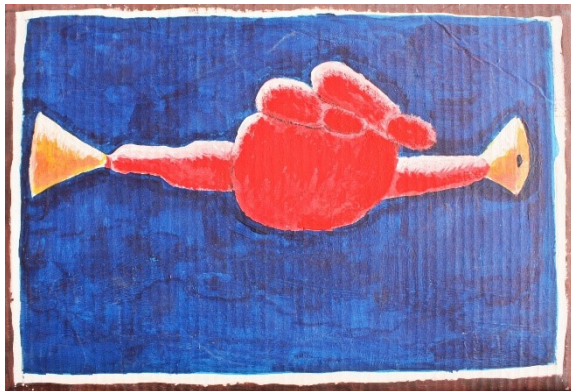
箱入り天子 2014/12/3



青い天子 ⑥ 2014/12/5



2014/2/22





2016/7/16







バラが咲いた 2014/6/5





白黒をつける 2016/2/17



2014/8/11



眼の奥に何が見える 2016/6/4



対象→もう一人の自分 2015/7/13



ベルとうたう②; 2015/7/9



ベルとうたう ④ 2015/7/21



天子は唄う 2015/8/5



ベルとうたう③ 2015/7/19



天子駆ける 2014/8/6



天子にラブソング 2014/8/1



みんなで団結 2016/4/12



オーイツ 2015/8/3



葡萄の中でハンドベル 2016/2/5



天子がおったげな 2016/4



天子のハンドベル 2016/4/3



2018/3/22



2018/9/1



ブランドもの 2016/6/3



顔 2016/6/24



見つめる 2016/6/24



二輪者 2016/7/29



天子の舞 2016/11/15



花と天子 2016/8/24



仲間と出発！ 2016/7/13



そんきよの構えの天子 2016/7/15



赤いマリと遊ぶ天子 2016/7/15



2016/7/19



分身 2018/4



天子 驚く 2018/5/9



天子の楽園 2016/10/11



2018/8/11



天子の楽園 2016/5/20



天子と羊 2018/5/15



2018.5.28 「天子の楽園」
2018/5/28 天子の楽園





紅白天子 2019/4





暇な天子 2016/7/13



2020/2/5



2019/5/14





2019/9/20







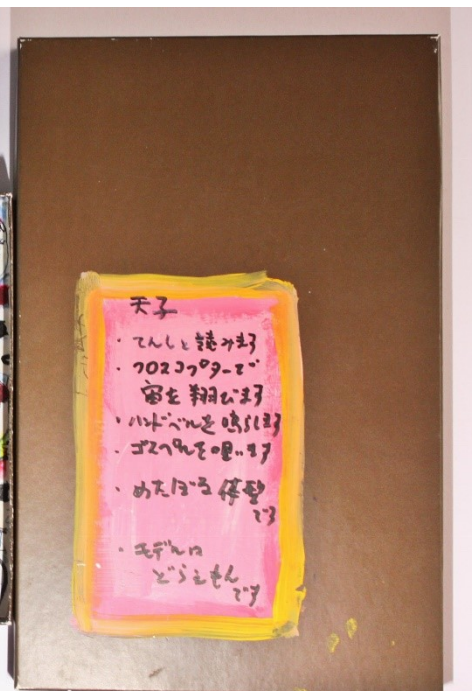


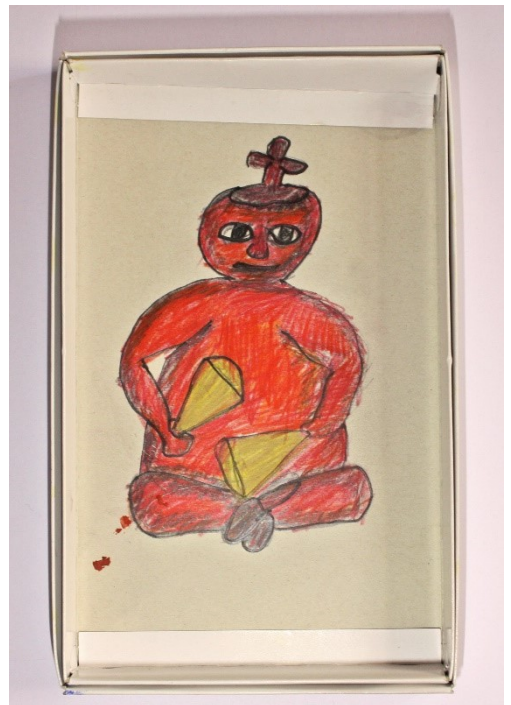
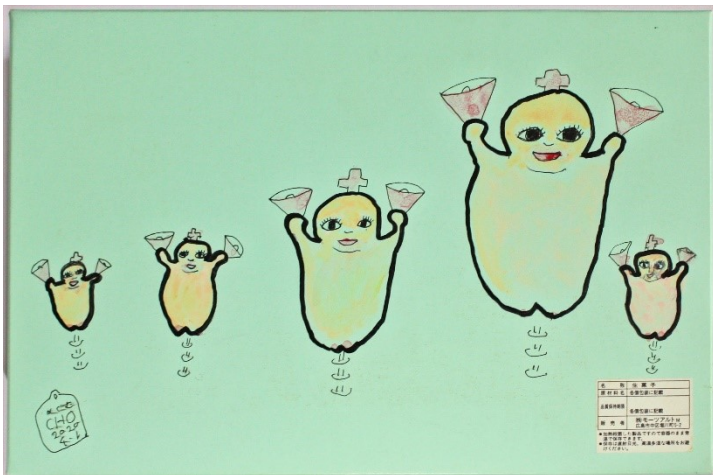






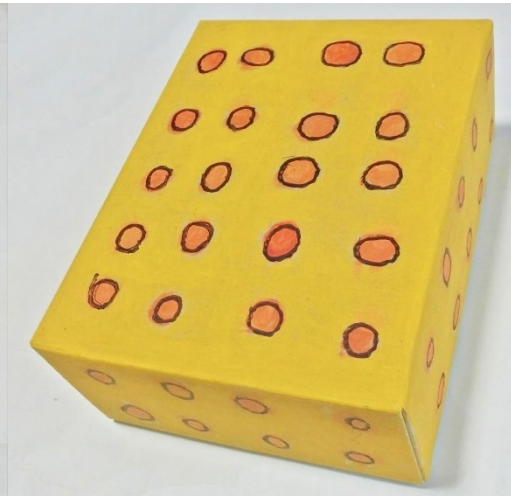






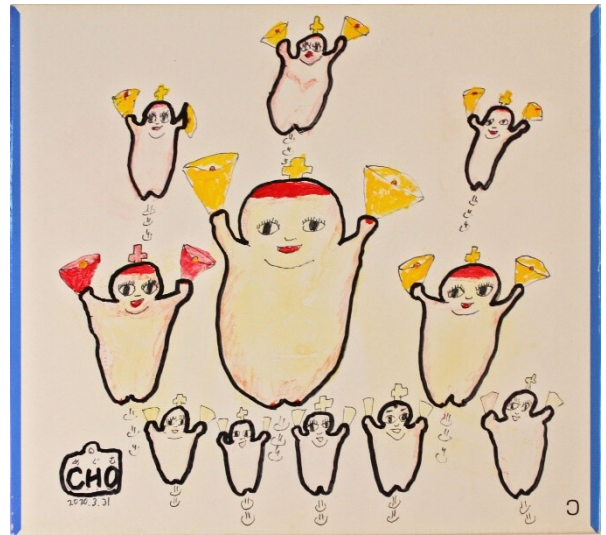


ロープ 2014/10/3

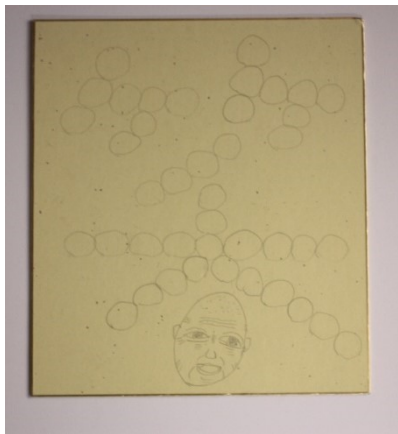


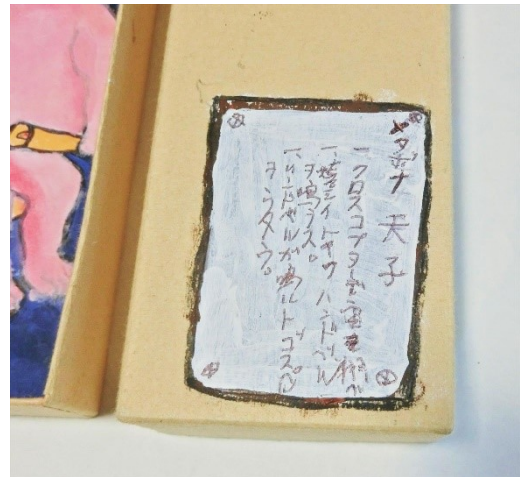


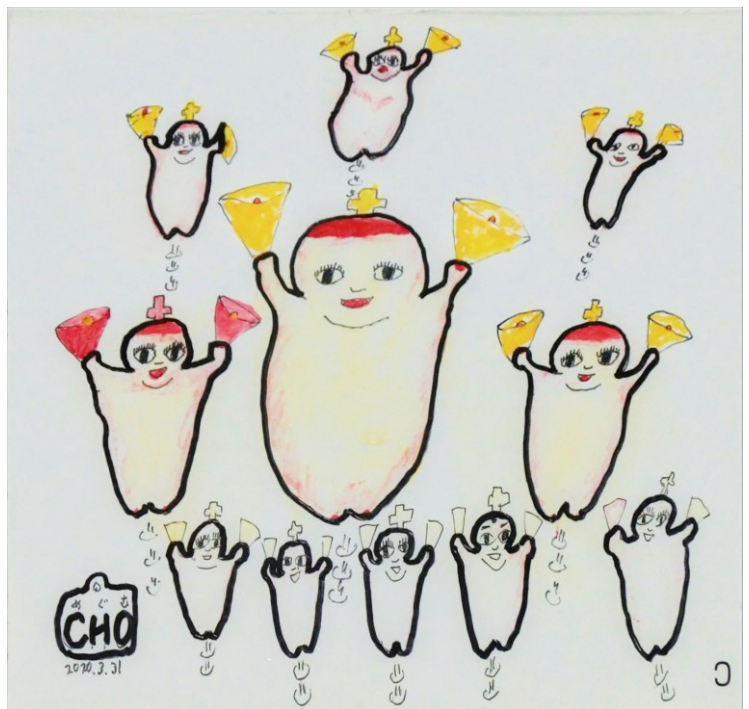
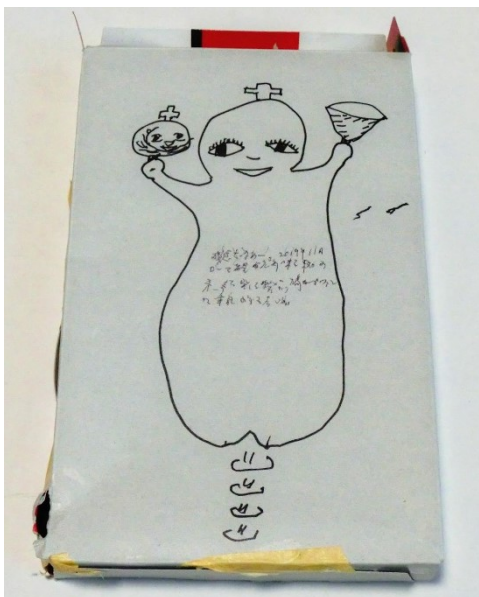
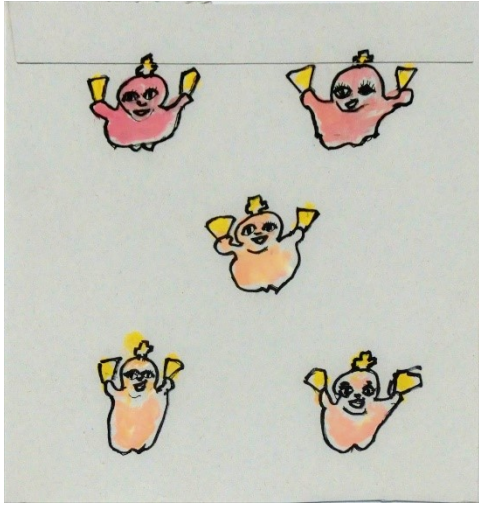
三二天子 2018

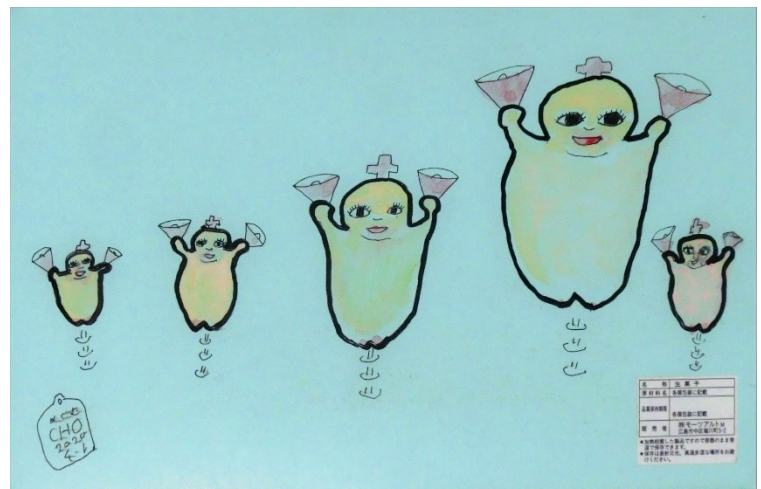
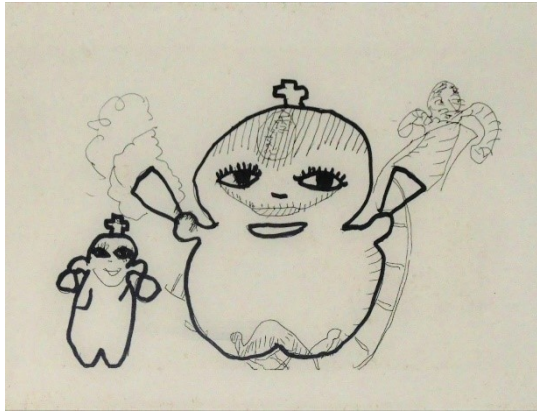




















教会関係



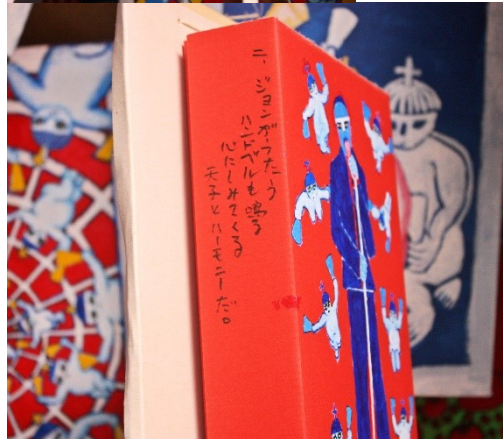
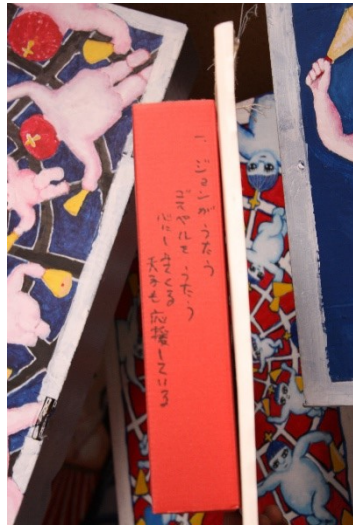
教会で作品展を案内 2014



天に上げられた 2014/1/4



笑子のハナクハ「真合川」
 アクリル絵具・95x110x100mm・3902920
 MEGURON GALLERY
 ①
 長徳





最後の晩餐
を祝う天子のハトヤル
771116888・9120201111・25^{cm}×56^{cm}
①-1 NESUSU GALLERY



し ^が 師を 囲んで
 - 5よって休憩 -
 2473 4111

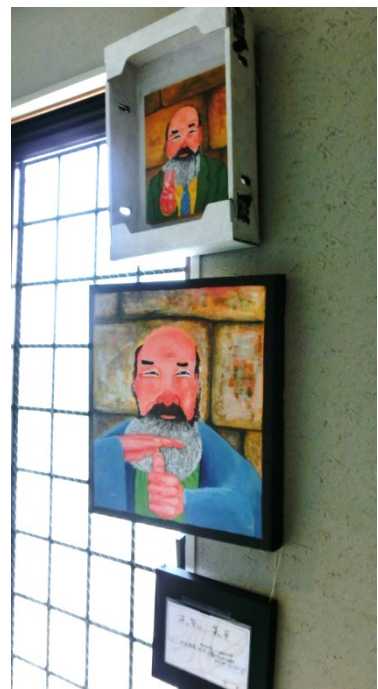
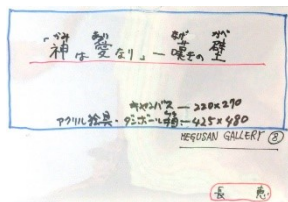
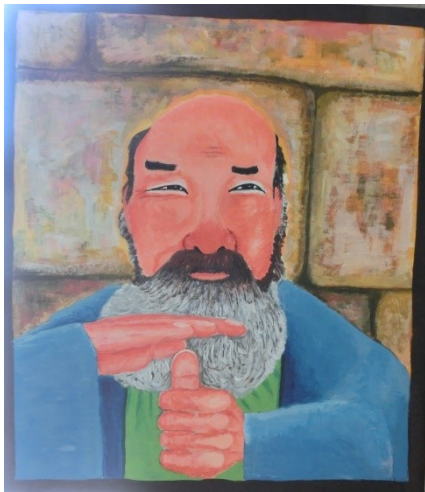
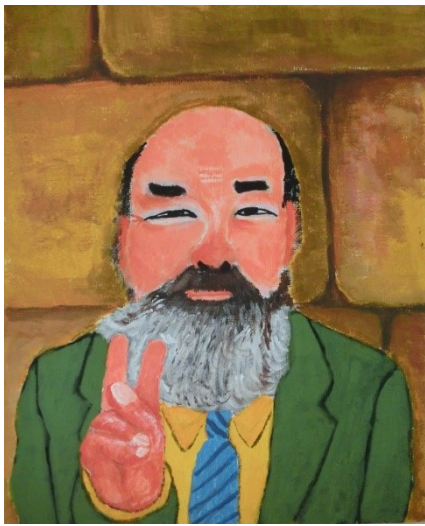
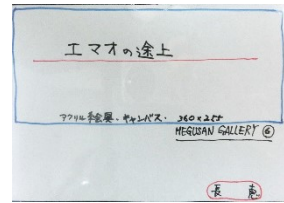
7クワリに終果。11たりの箱の箱(31受ぶ) = 22500

①② MEGUSAN SAKERY

(英子先生と12名の男性の写真をお借りして。)
 (どなたのお顔がお判りでしょうか?)

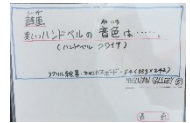


エルサレム郊外 2014/7/28



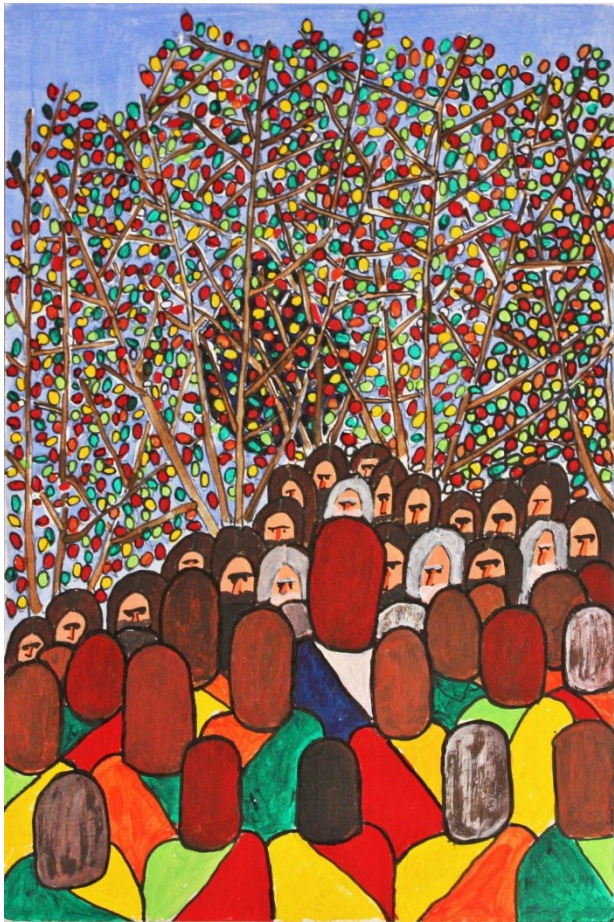


野の花を見よ 2015/1/24



ハンドベルコンサート 2015/1/25





樹上の男 2014/2/7





イエス 2016/6/24



われも汝を罪にせじ、往け、この後
ふたたび罪を犯すな 2013/4/24



主を讃えるダビデの詩 2014/9/14



兵士と部隊の全員を集めた 2015/1
「ユダヤ人の王 バンザイ」と言って侮辱した」
マルコ 15:16-20 マタイ 27:27-31

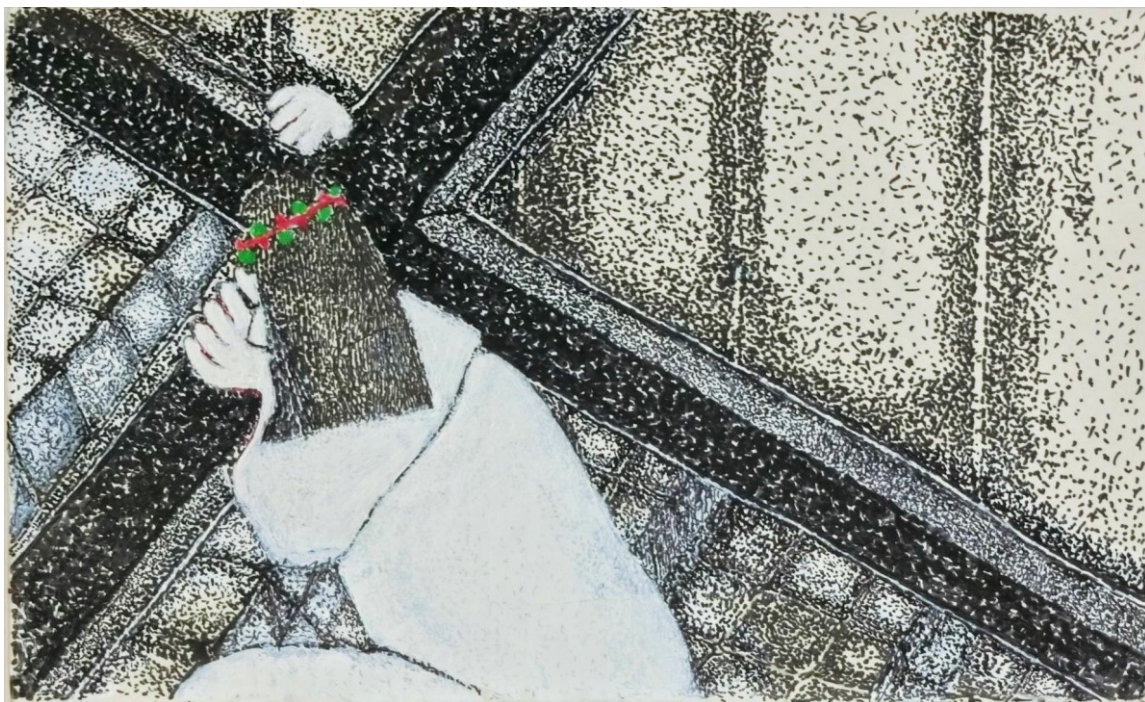


オリーブ山で祈る 2015/9/21



ゲッセマネの祈り 2013/7/9
「父よ御旨ならばこの酒杯を我より
取り去りたまえ」ルカ 22:39-46

祈る
7700 絵具・板紙(本寸) 292x333 (FF)
第一回 富弘美術館 絵画の公募展
入選作品 MEGUSAN GALLERY
長 恵



イエスは自ら十字架を背負い 2015/9/16



太陽は光を失っていた 2015/9/13



亜麻布に包まれたイエス 2015/9/25



我は葡萄の樹 2009/9/30



我は復活 2010/7/28



キリストと天子と花 2016/7/4



イエス様と話そう 2016/7/1





癒しいイエス 2016/6/20



イエスの祈り 2016/6/23

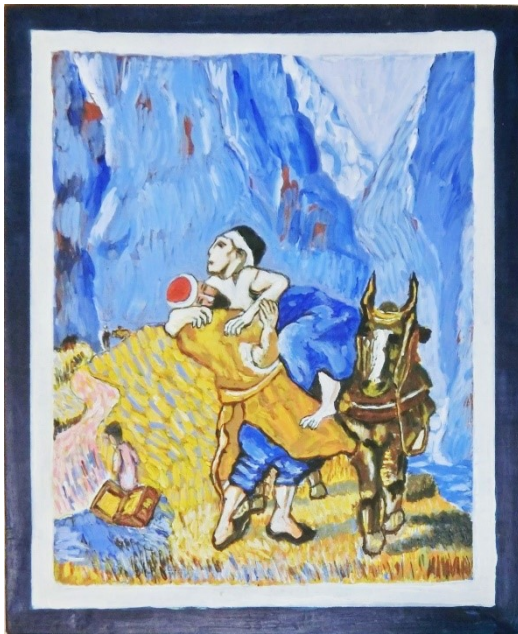


イエスの母 マリア 2016/6/16



馬舟のイエスを祝う天使達
 *アクリル絵具・カンパネラ紙・46×32×1cm
 MEGUSAN GALLERY

2013/12/1



ゴッホの「良きサマリヤ人」模写 2013/9/11



2012/2/29



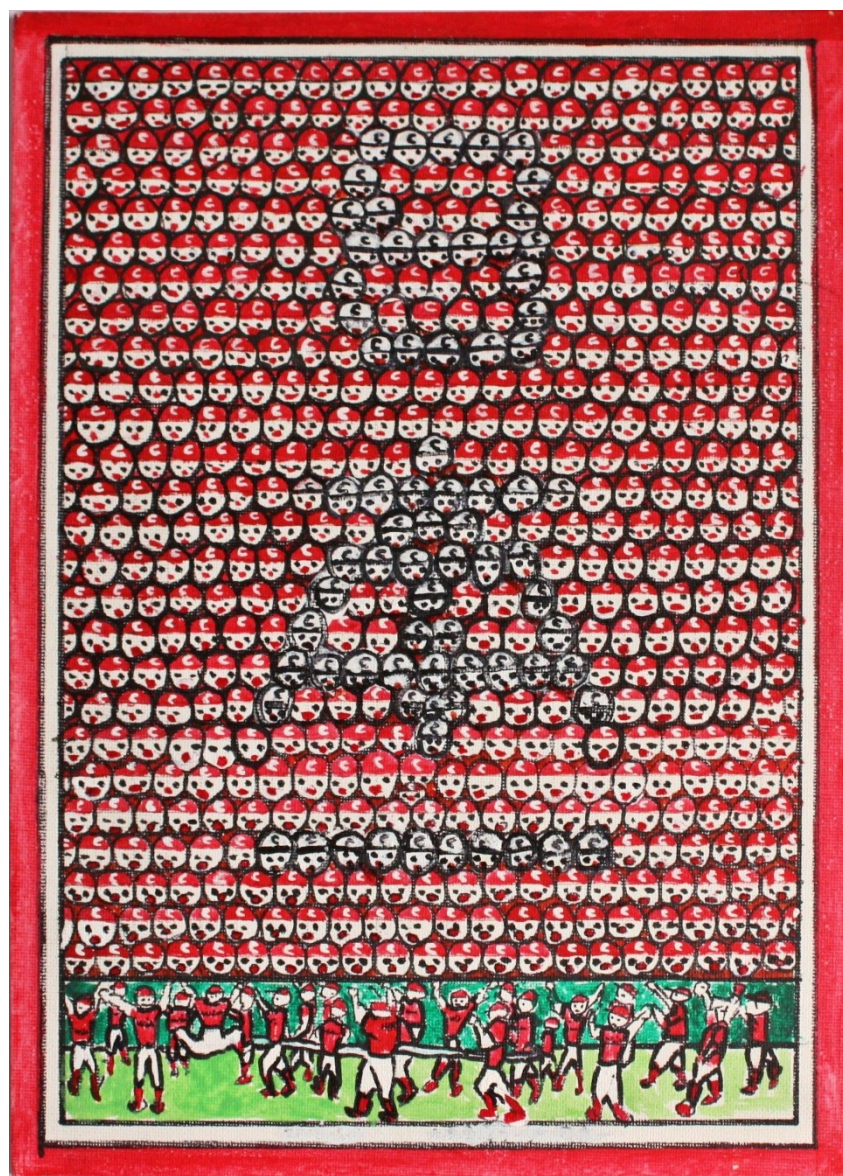
生命の炎 2014/8/8



我は道なり 2009/10/17



カープ愛



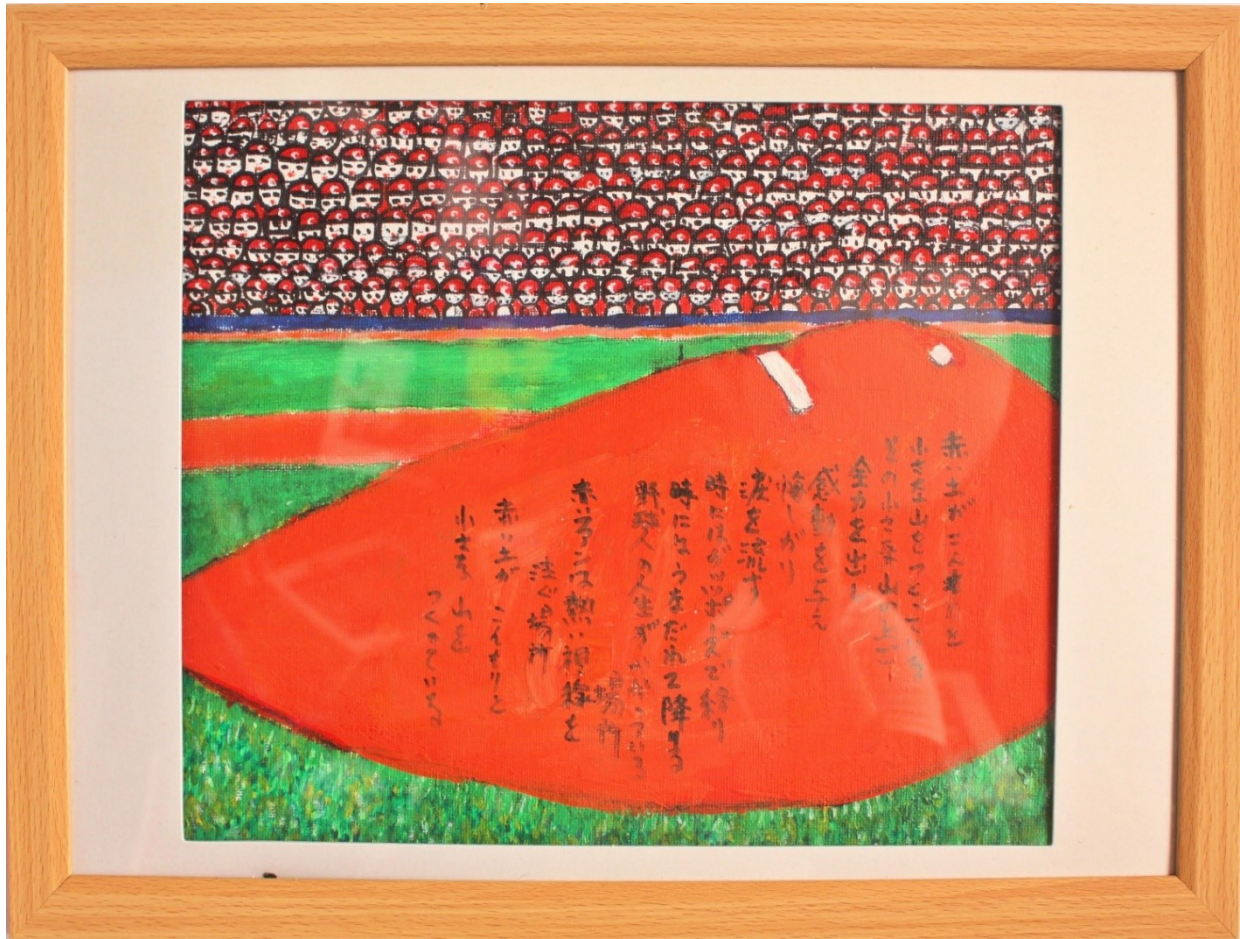
カープ日本ー 2015/2/27



2016/5



カープを唄う 2019/3/1



天子の黒幕 2017/1/15



バンザイ 2018/5/19



カーブ不安 2016/5



燃えろ 赤ヘル!! 2015/6



カーブぼうや 2019/4



天子と紅いTシャツ 2019/4



フレフレカーブ 2014/7/30



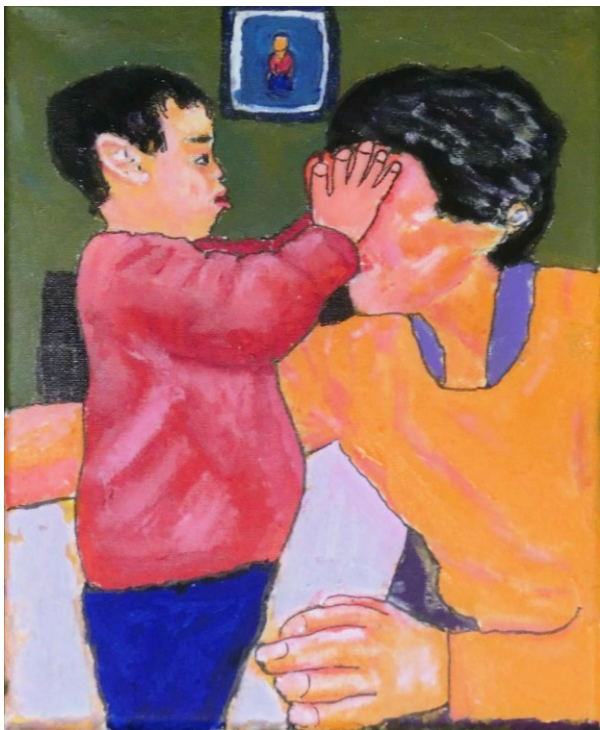


その他



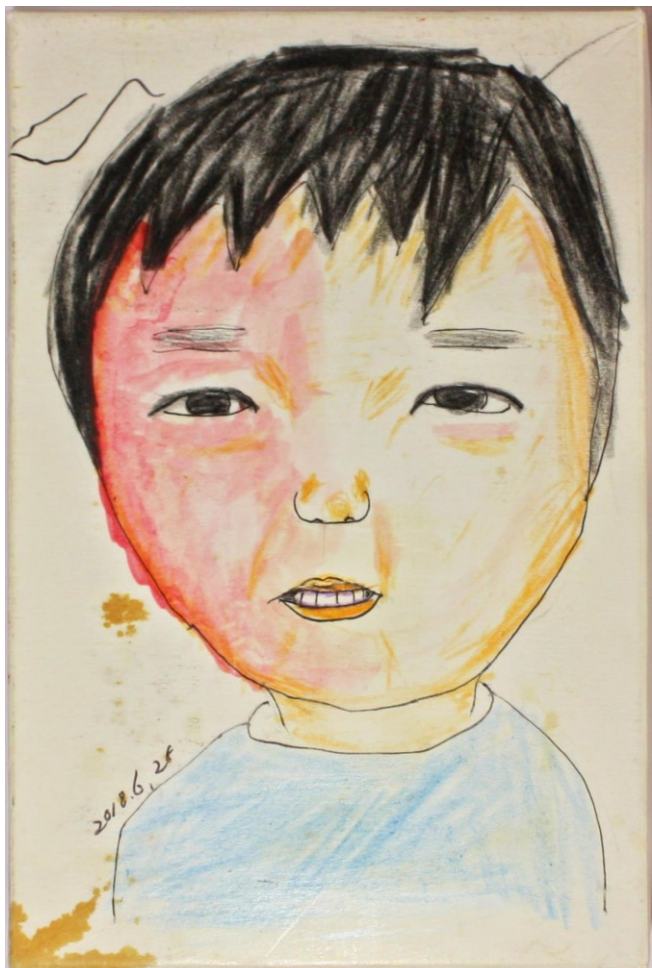


2016/2

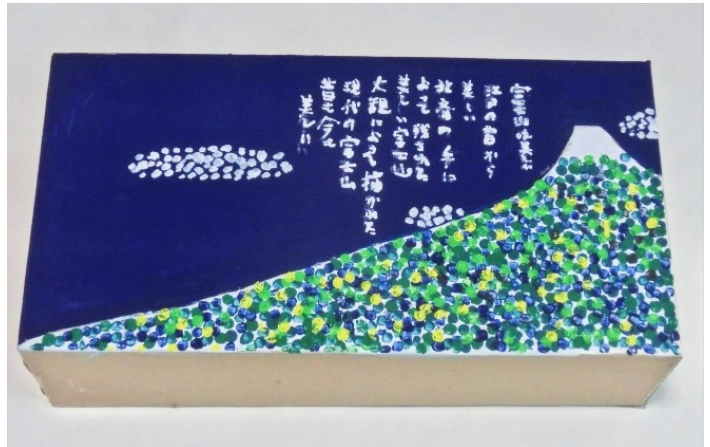




節句 2016/4/28



新 2018/6/25



2018/11



やっぱり富士は日本一 2015/9/9
 畿内から見た富士山





2014.8 広島土砂災害 2017/7

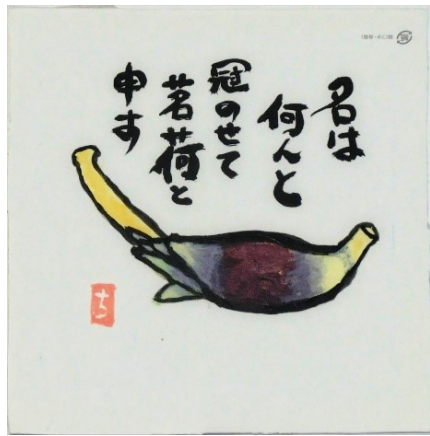
広島土砂災害をテレビで見ている自然の恐ろしさを感じましたが崩れた山肌の形が「人」という文字に見えました。自然が命の大切さを教えてくれている様で自然に対し人はもっと謙虚であらねばならないと思いました。(第3回 富弘美術館詩画の公募展 出展)



自然は人を育てる 2014/11
2014広島土砂災害で感じたこと
(第3回 富弘美術館詩画の
公募展 出品作品原画)



雲の中に浮ぶ一本道 2015/8/25

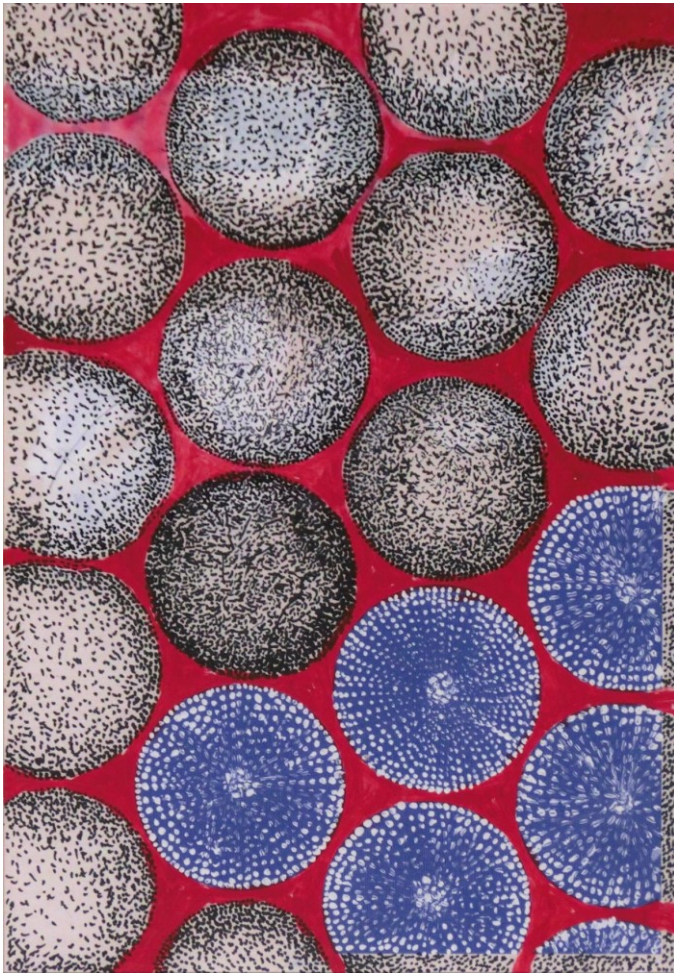


花詩事場 すずらん 2014/5

茗荷の花 2014/10/8



花詩事場 ジャズミン 2014/5



血流 (善玉・悪玉) 2015/9/26



ストレス 2016/5/13



トマト姫 2016/8/26



ダルマさんが並んだ 2015/4/20

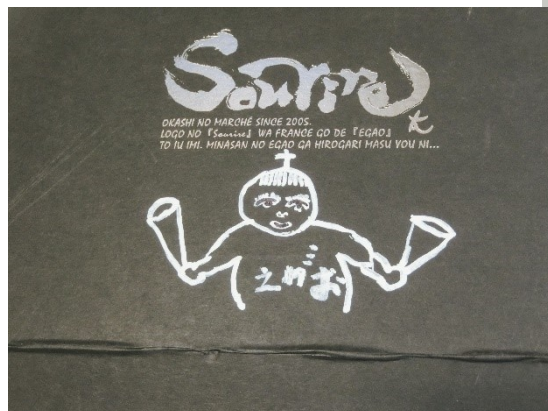


バンカーショット 2015/10/7

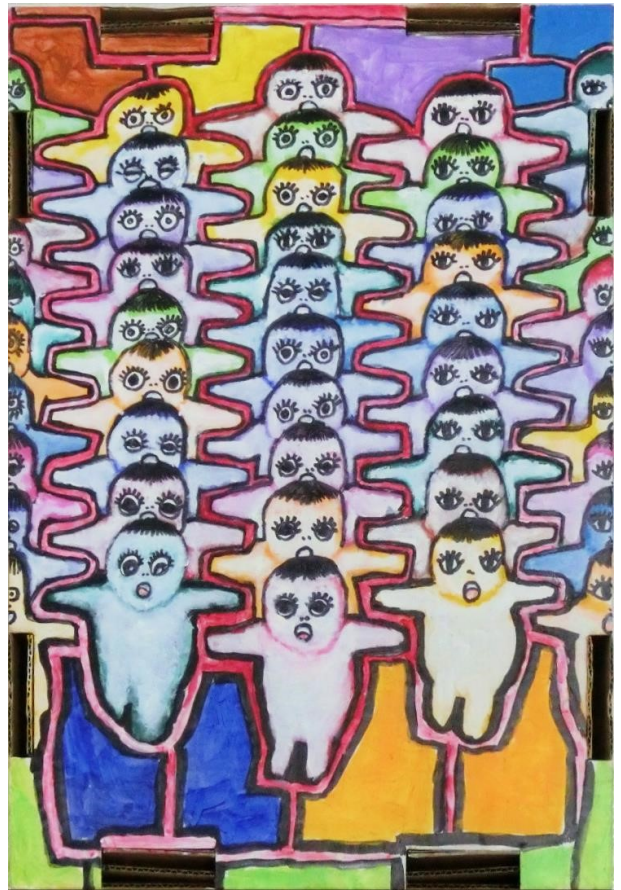




若者の家



えがお





ほんまもん





「ラ・トゥールの『大工の聖ヨセフ』」
(模写) 2013/5/14

-はじめに-

2007年(H19.3)福祉の現場から退き、自宅での生活(年金生活)を開始する。一日の時間は長く、何かをしなければと想い巡らしていた。以前から興味のある自分のルーツをさぐろうかと思っただが、小学校時代より好きであった絵を描く事に決めた。絵を描く事は中学時代以来であった。ルーツ+絵という事で自分の幼年期の事を絵にするに至った。

頭の中に残っている断片的な記憶と心に残っている哀情とを表現できればと筆を進めた。幼少時の写真と母から聞いていた話とを継げて物語として仕上げた。

家族~私の生きて来た歩みが伝えられればと思っている。又、当時小さい子供と連れ添って若い母親を支えてくれたまわりの人達への感謝も併せて述べたい。

参考:「中国からの引揚げ 少年達の記憶」より (中国引揚げ漫画家の会編)

長 恵

あがひの かよの いのち
1. 「赤紙」-家族の肖像-

1943年5月 父ちゃんの仕事で 広島から
家族で 中国・家強宣化に 来ていました。

1945年5月 父ちゃんに召集令状が来ました。
母ちゃんは「赤紙が来た」と 怖い顔で 言
いました。父ちゃんは 6月になり 大同へ
兵隊さんとなり 行ってしまいました。

その時

父ちゃん 33年2ヶ月

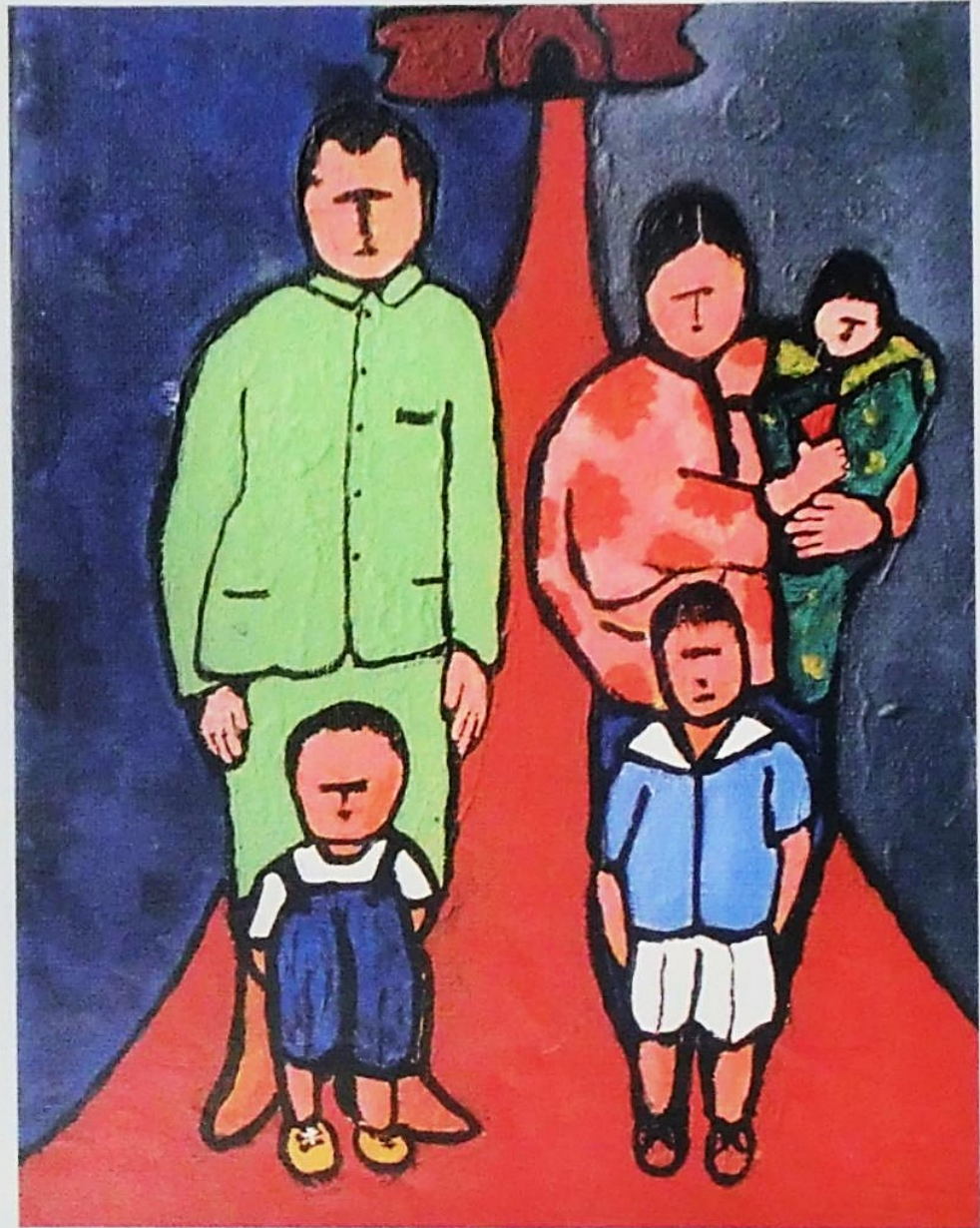
母ちゃん 26年10ヶ月

みちちゃん 4年9ヶ月

めぐさん 2年7ヶ月

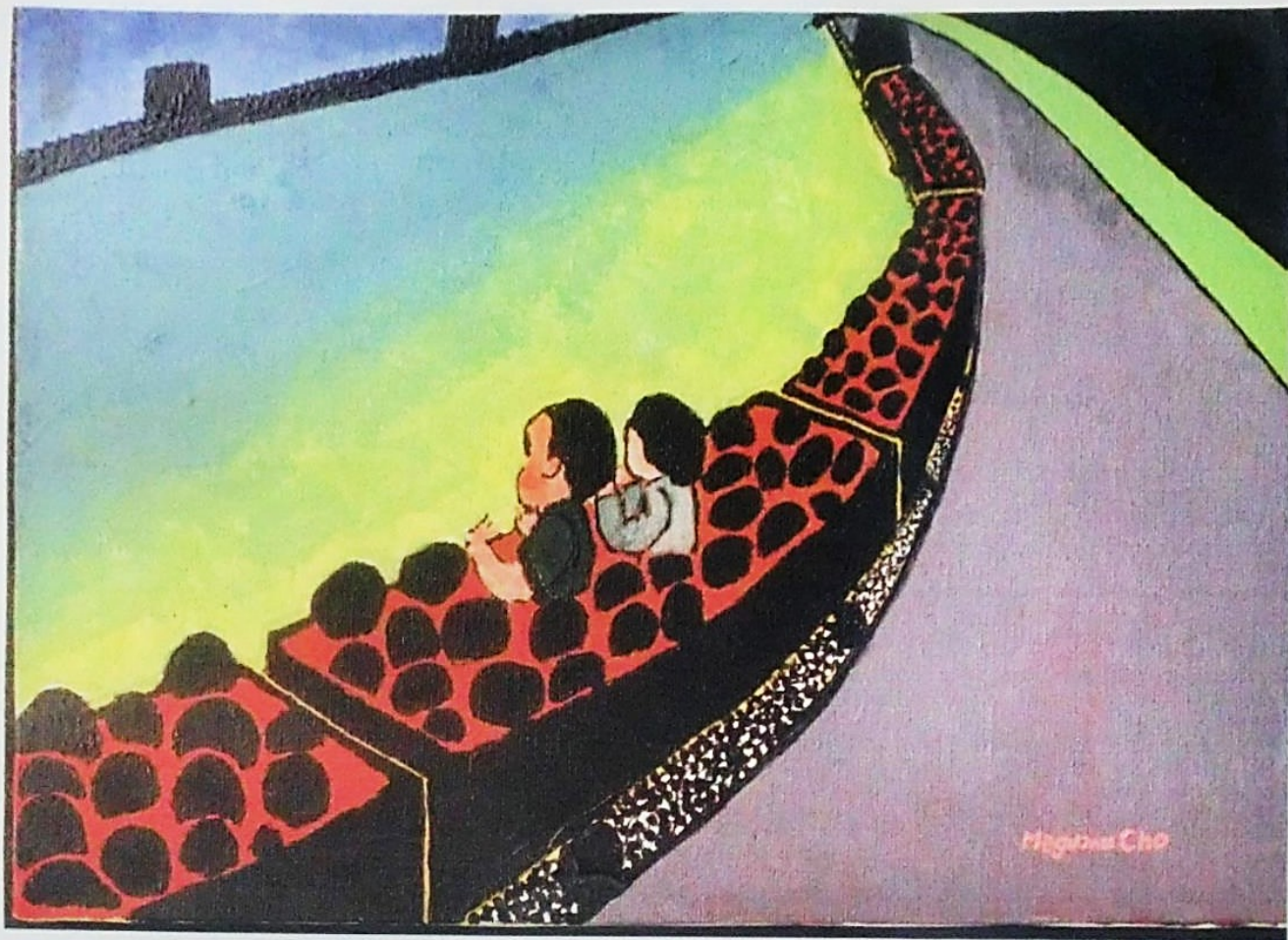
じかんちゃん 6ヶ月

父ちゃんが 家を出る時、母ちゃんの
眼は 涙でいっぱいでした。



2. 万里の長城 - 貨車で北へ -

母ちゃんが居なくなつて8月、日本人は皆
日本へ帰る事になりました。母ちゃんは戦争
に負けたよ、「早くお家に帰りにやいけん」と
言いました。母ちゃんはしゅんちゃんをおんご
し、みっちゃんとおぐさんに荷物をもちせ
自分も荷物を持ち、近くの日本人の人達と
一緒に、張家口の駅まで行き、屋根の
ない貨物列車に乗りました。「これが最後の
列車よ」と近くの人が言っていました。
張家口の人々が乗りました。途中で母ちゃんが
「みっちゃん、おぐさん、おんごさん、おれが
万里の長城よ」と指さして言いました。



3. 「南京豆」 - 北京収容所 -

北京という馬に着いて 首な降はした。
しばらく歩いて大きな家の中に入りはした。天山の
人が居ました。毎日ご飯を食べて 寝起きをし
ました。そこで南京豆を売っている学生さんが
居ました。

母さんと学生さんが 話をしている時、
めぐさんは 勝手に売り物の南京豆の袋を
開けて、天山 食べて 学生さんに迷惑を掛
けました。

又、ここに居る間に 赤ちゃんが 生まれま
した。女の子です。(1月18日の寒い日です。
お乳が「あまり出ない」と 母さんは
言いました。



4. 「露軍兵士」-貨車で移動-

3月に在りて 日本へ帰ることになりました。
沢山人と北京の馬車から貨車に集りました。
屋根のある貨車でした。入道の前には兵隊さん
が集っていました。外国の兵隊さんでした。
「ロシアの兵隊よ」とおぢさんが言いました。
兵隊さんが大きな声で、何か言っていました。
おぢさんは時計を渡していました。
兵隊さんは沢山の時計を物に
つけていました。



5. 「集団引揚」^(しやとくひきあげ) -母と4人の子供-

天津という駅に着くと貨車から降られ
 歩くことになりました。貨車を降りた沢山のひと
 一緒に歩きました。どこへ行くのが判りません。
 母ちゃんは赤ちゃんと荷物を抱いて、じゅん
 ちゃんをおんぶして、みっちゃんの手を握り
 歩きました。みっちゃんはリュックを背負っていま
 した。めぐさんは水筒を11つか体に下げて
 沢山の人の間を歩きまわっていました。
 「めぐさん 母ちゃんの傍から 沢山のひと
 と母ちゃんが 大きな声で 言っていましたか」
 ぐん はなれて 先へ先へ 行ってしまいました。



6. 「船上」 - 船内で病気

大きな船が^{ある}所に^つつきました。
めぐさんも^おお母さんの^{そば}傍に^ま居ました。
船に乗る^に乗ると「日本に^か帰るんよ」と^おお母さんが
い^い言いました。船に乗る^{とき}時^に大きな^い隊士^がさんが
い^い言いました。手を^か貸してくれました。「アメリカ
の^い船よ」と^おお母さんが^い言いました。沢山の^い人が
乗^りました。「L.S.T」とい^いう船^がでした。船の中^でで
病^が気が^は流行^り、体^の弱^い人や^は栄^養失^調の
子^が供^がが^は罹^りました。めぐさんと^おお赤^いちゃんも
病^が気^になりました。めぐさんは^め甲板^でで^いい
た^い急^に助^かかりました。お^お母^がさんが^お背^中中^をを
さ^すすてくれました。でも^おお赤^いちゃんは^し死^んで
し^まりました。死^んんだ^日は³月²9^日でした。
ほ^かか^にも^い沢^し山の^い人^がが^し死^んじ^まりました。



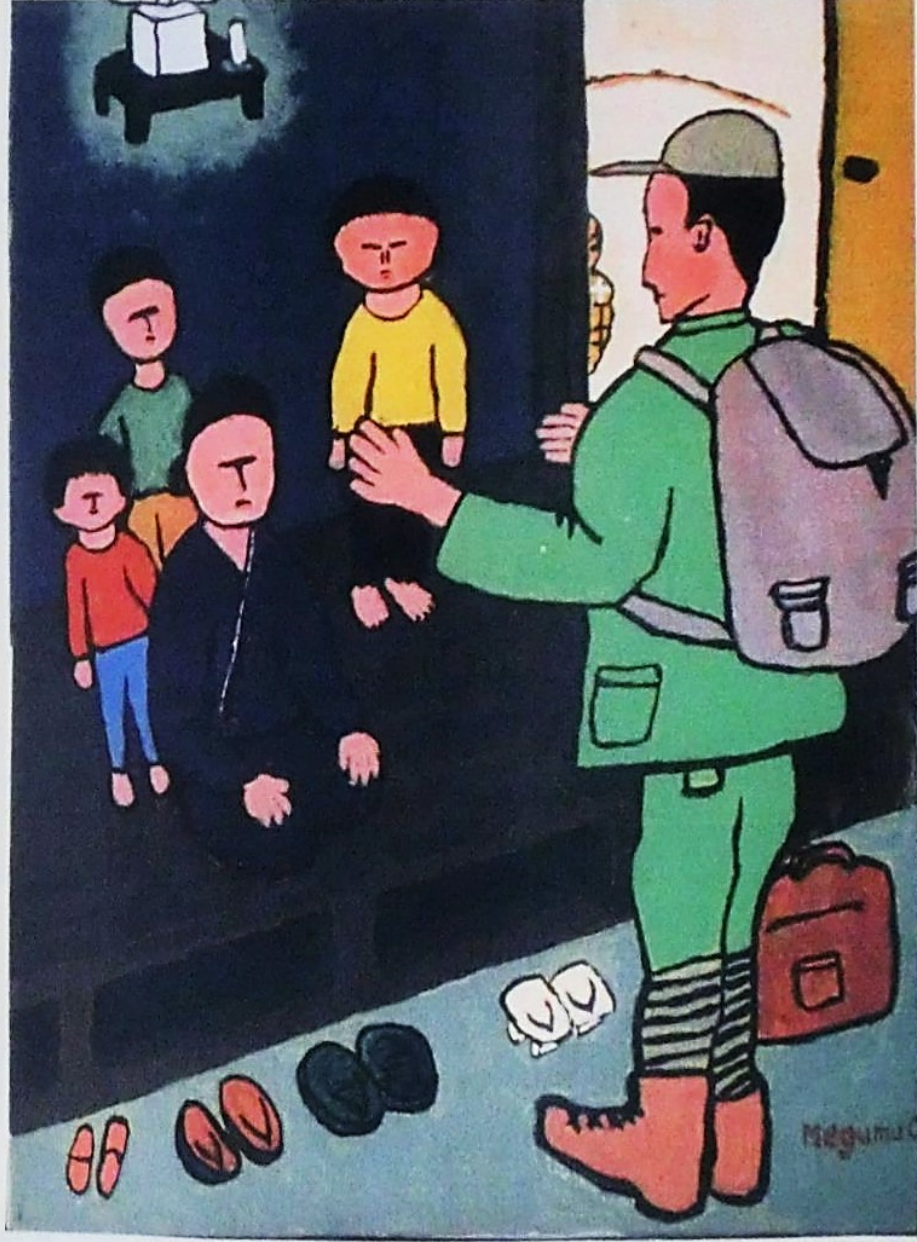
7. 「下船」 - 赤ちゃんの骨 -

「帰ってきた」と母ちゃんが言いました。日本に
 着きました。皆は笑っていました。船を降り
 時 アメリカ兵隊士が抱きあげて降し
 てくれました。船を降りて船の中で「死人」
 人を焼きました。赤ちゃんも焼きました。
 母ちゃんは骨を拾って壺に入れながら泣
 いていました。涙の泪が出ていました。
 入れ終ると木の箱に入れて白布で包み
 ました。船から降りた所は長崎県の
 佐世保という港でした。



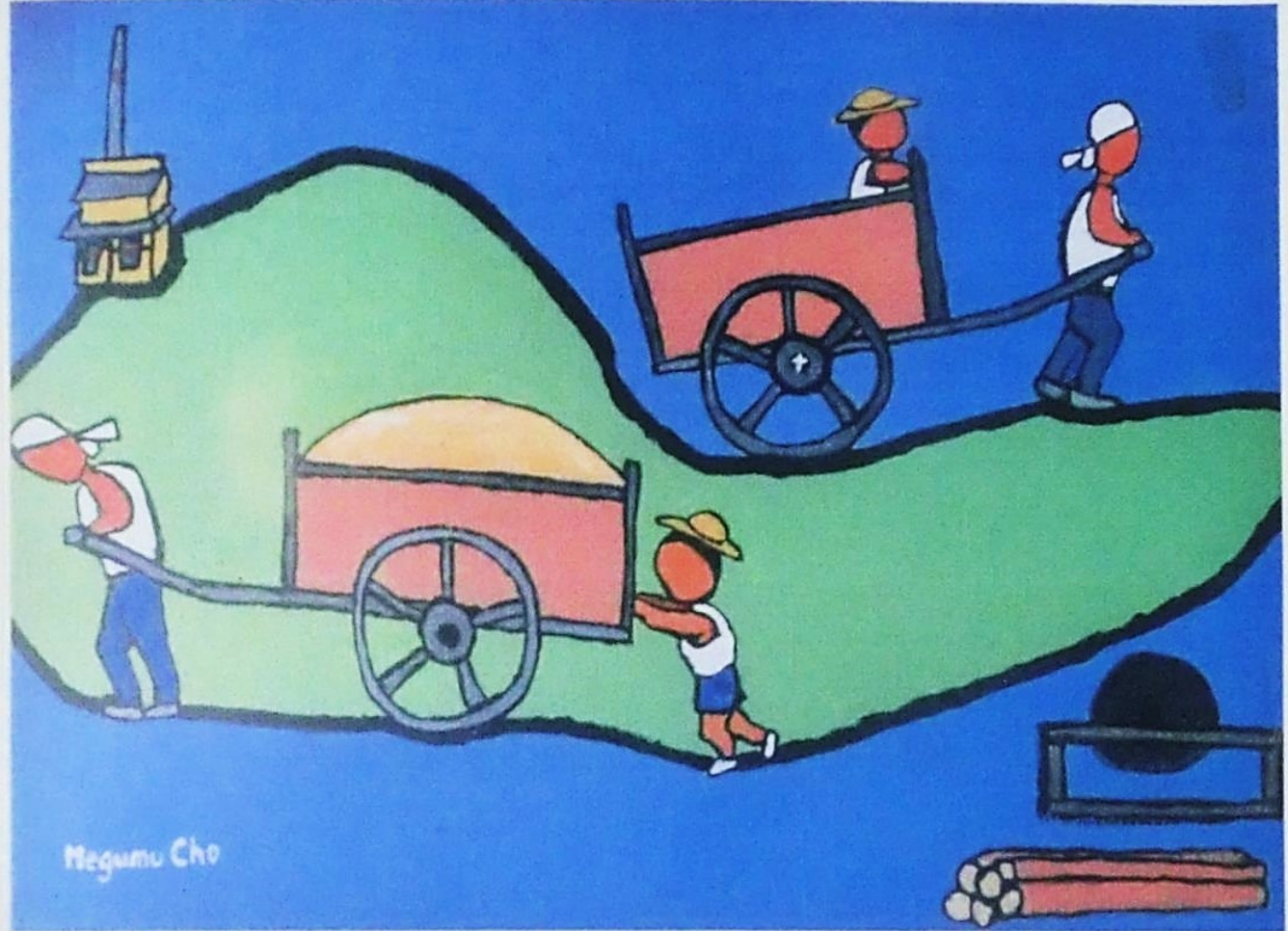
8. 「再会」 - 父. 来た -

母ちゃんは、熊本に居るお姉さんの所に
みちちゃん、ゆげさん、じゅんちゃんを連れ、赤ちゃんの
骨を持って行きました。母ちゃんの家族は
元々、熊本県荒尾市出身でした。お姉さんは
そこから嫁いでいます。お姉さんは熊本
市内の空いている家を賃して来ました。その家
やと暮らして暮らせるようにしました。ある日
父ちゃんが突然やって来ました。母ちゃんは
板の間に座って、怒った顔を父ちゃんを見て
いました。眼から涙がポロポロとこぼれ落
ちていました。父ちゃんは「戦争に行く前に終
戦となり、捕虜となり日本に送られた」
と言いました。父ちゃんは「広島の家が
ちゃんとなったら、皆んを迎えに来る」と
言って広島へ帰って行きました。



9. 「友達」 - 風呂屋の手伝い -

ぬい子は 熊本で 沢山の友達をつくりました。
 家の前の風呂屋さんに遊びに行き 風呂屋のお兄
 さんの手伝いをするのが 楽しみでした。浴槽
 を洗ったり 木桶を並べたり 釜炊きのアケ火
 にもお風呂をいれたり、湯が沸くと 一番風呂
 に入らせてもらったりしました。又 湯を三沸かす
 の 風呂すきを取りに 製材所へも行きました。
 行きは 大八車に乗せてもらい 帰りは 押し
 ました。ぬい子は 幼稚園に行きましたが
 最初の日は へんかして 次の日から 行けず
 でした。ぬいちゃんは 小学生になりました。
 23年10月10日 母とぬいちゃんが 生まれました。
 産婆さんが来て おばちゃん達は
 風呂を用意したり、かまどで 湯を沸
 かしたり 大忙しでした。



10. 「故郷」-新しいスタート-

24年4月10日 ^{めぐみ}めぐみさんは ^{黒髪}黒髪小学校、
入学しました。「めぐみさんの名前がない」と
母ちゃんが貼ってある組分けの紙を見ながら
言いました。先生に聞くと捜してくれて、女の
子の名前が書いてあるのが見つかりました。
それから一ヶ月の5月に父ちゃんが家族
を広島連れて帰る為、迎へに来ました。
汽車=乗り 広島に帰りました。めぐみさんは
6年振りに広島に帰って来ました。新しい家
は庚午町の市宮住宅でした。家のまわり
や広場は砂地でした。父ちゃんが「この
家よ」と指さしました。母ちゃんもニコニコ
嬉しそうな顔でしたが、眼から涙が
溢れていました。
新しいスタートが始まりました。



11. その後
 亡くなった赤ちゃんは 父ちゃんに
 「子えちゃん」と名前を付けられ
 お墓に納骨されました。

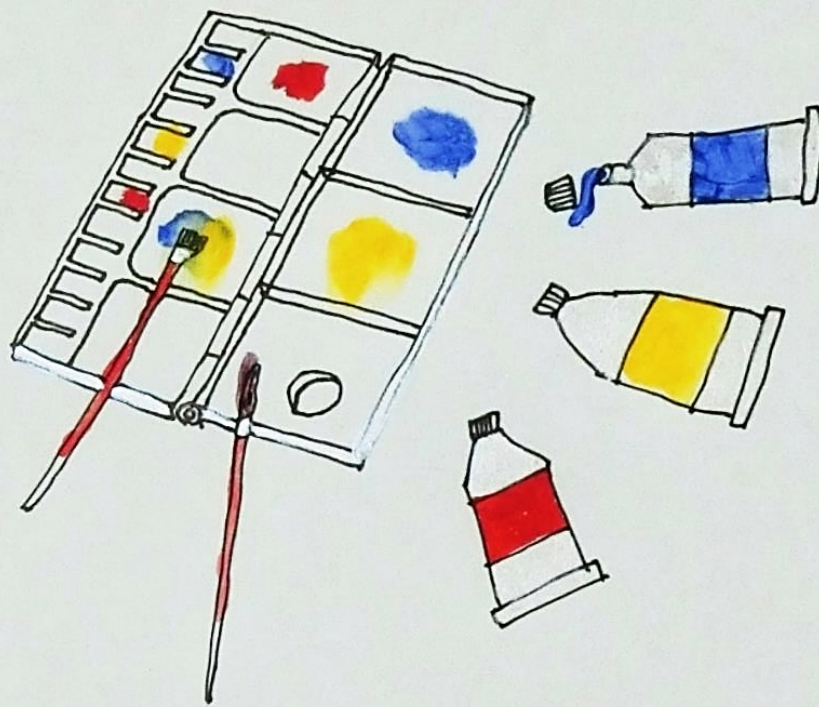




教会で展示 2010

一枚の絵・オ-先生との出会い。

(めぐさんの自伝 II)

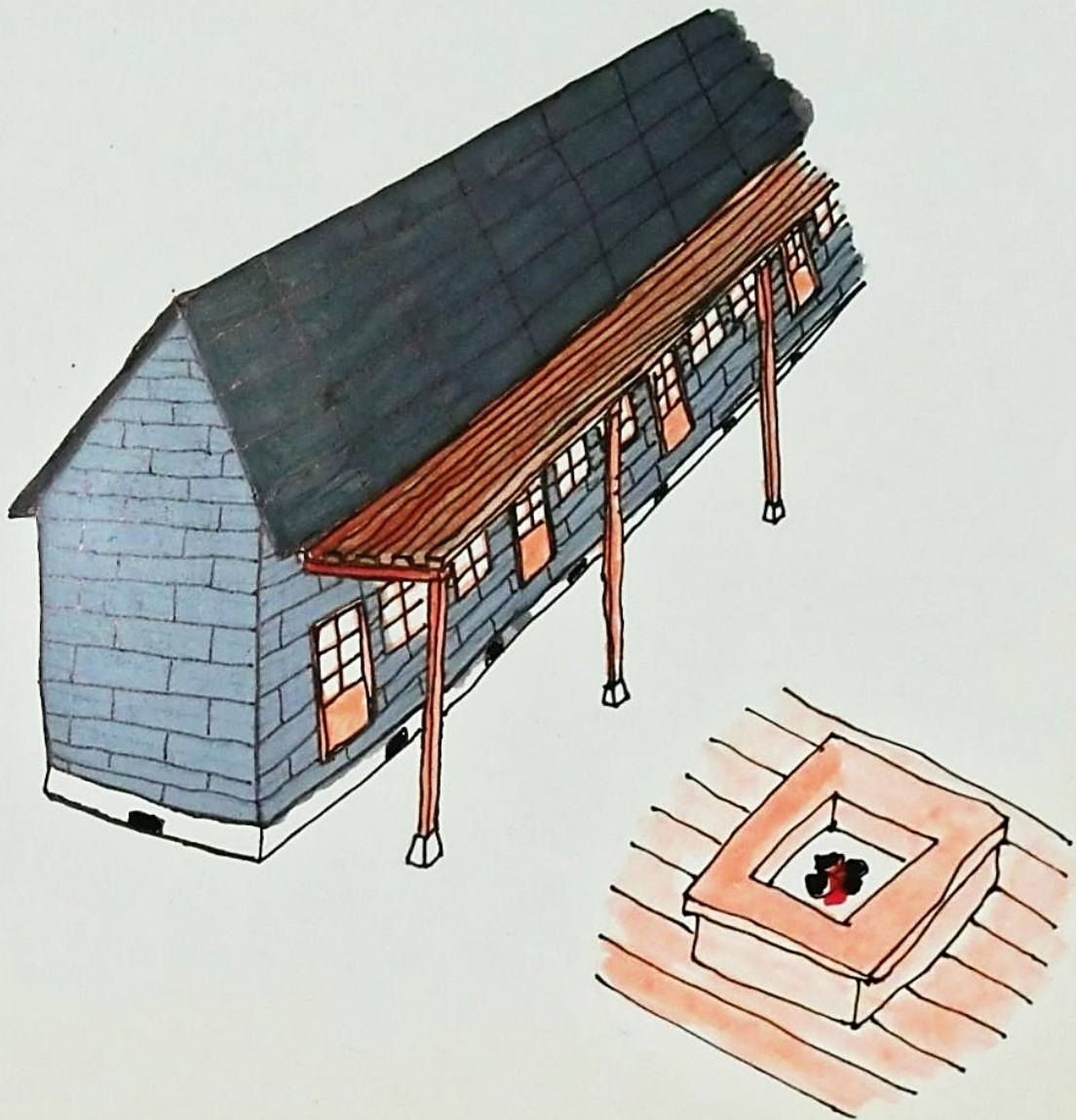


作； ちょうめぐむ

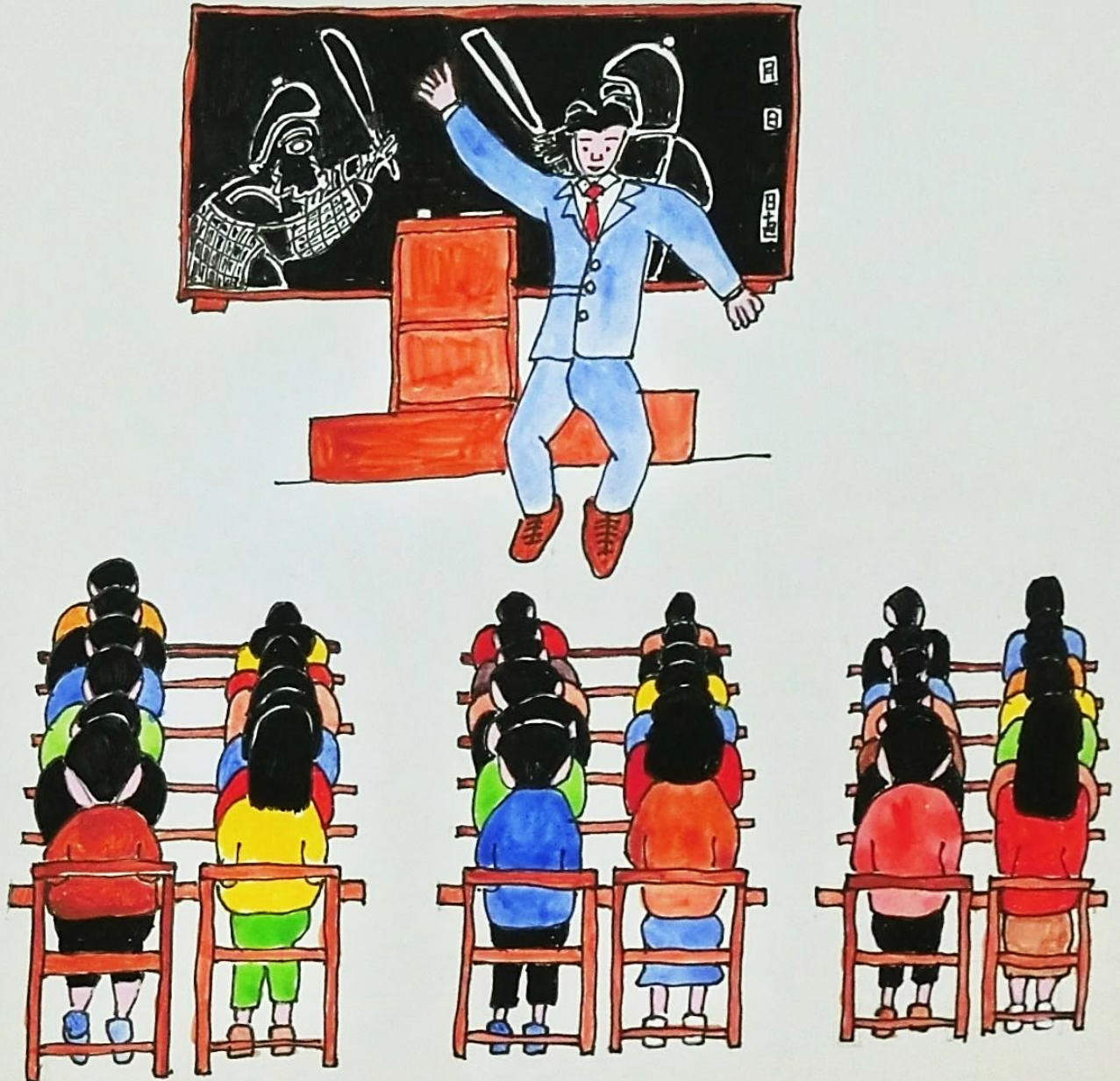
画； MEGUSAN

(この物語はフィクションです)

めぐすんは ^{しょうが ねんせい} 小学2年生の時 ^{くまもと} 熊本の小学校から
^{ひろしま} 広島市内の ^{さんじょう} 三条小学校へ ^{せんがく} 転校してきました。そして
お先生のクラスに入りました。初めての出会いでした。
^{なつ} 夏は暑く ^{ふゆ} 冬は寒く ^{ひばり} 火鉢で ^{あたたか} 日暖を ^{とりました} とりました。
お父さんが ^{あたま} 目張りをしてくれました。



オ-先生は 絵の先生で、とても上手でした。給食時間や
雨降りの体育の時間では黒板に お話の絵を描きながら
話してくれました。クラスの首人なは 給食の時間や雨降りの
白が楽しみでした。オ-先生はいつも「オ-」と手を挙げて
いたので みんなで「オ-先生」と呼んでいました。



めぐさんとクラスの皆さんは絵を描くのが好きになりました。
毎日の時間に描くだけでは満足できません。学校の休みの日には
木先生と一緒に絵を描き山や川へ行きました。それから
あちろ字生大会に参加したり、出品したりしました。めぐさんや
友達の絵が色んな大会で入賞しました。



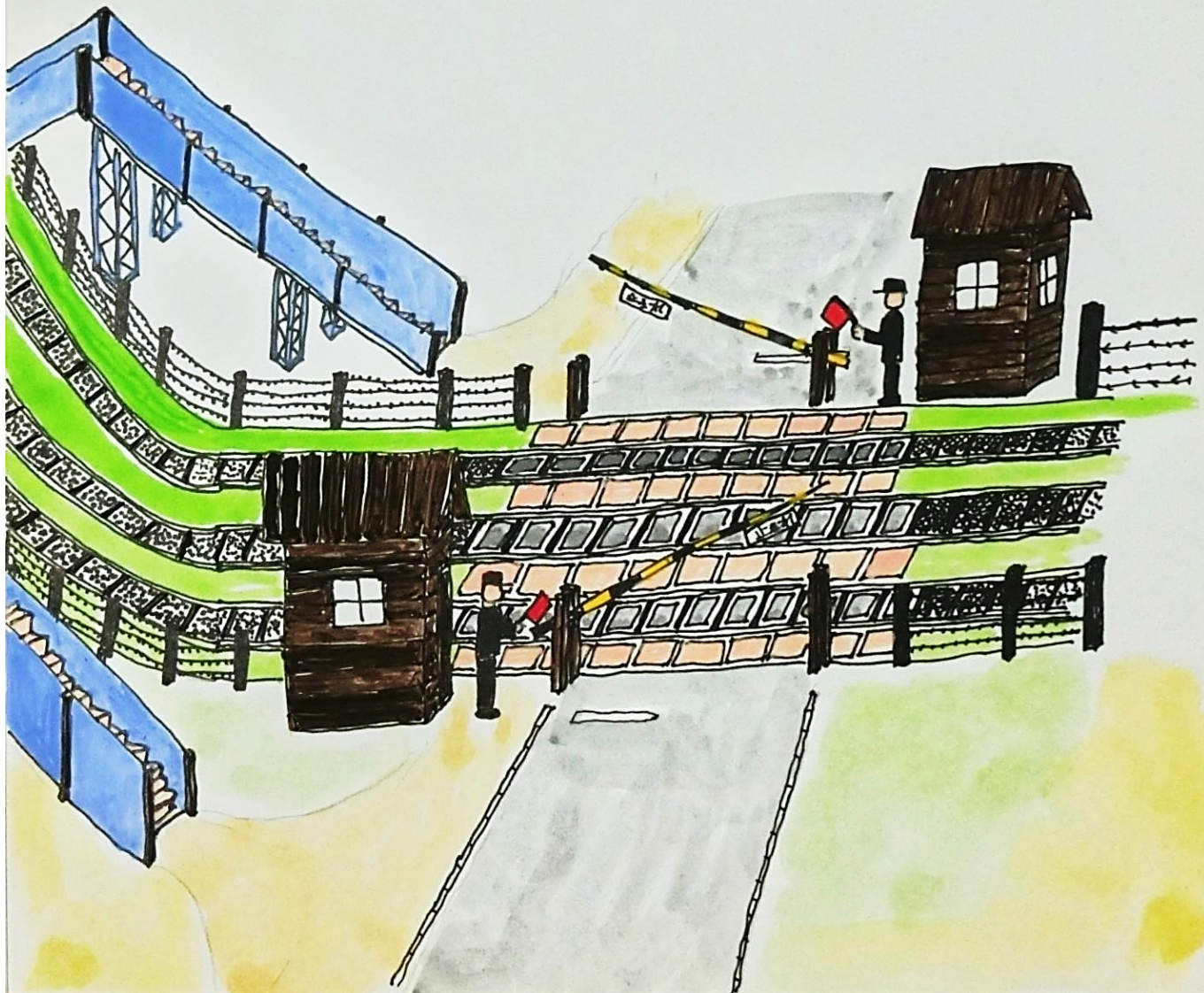
新聞社主催の学生大会に参加して、めいじんは大きな木の
絵を描きました。太田川の土手に天に向かって伸びて行く
大きな木でした。画用紙が絵がはまりました。
その絵が特送で送られて新聞にも載り、朝礼の時に
校長先生から賞状と賞品を渡されました。
賞品は水彩絵具一箱でした。



めぐさんの家は貧しくて絵具等道具も持ってませんでした。
クラスの中に同じように貧しい友達も多くいました。
オ-先生が使った筆や絵具を集めて持って来て使わせてくれました。
冬の時期に字生に行く時薄着の者の背中に新聞紙を入れて
くんだり靴底に入れてたり零したものを拾って教えてくれました。



めぐくんは オ-先生を とても好きでした。絵も好きでした。
大きくなったら オ-先生の様な「絵の先生」になりたいと思ふやうに
なりました。小学校卒業前には オ-先生と友幸と一緒に最後の
写生に出かけました。横河駅の東踏切の傍で 陸橋や S.L.や
踏切りを描きました。オ-先生も描きました。



オ-先生から卒業式の日には、油絵具一箱を
記念にもらいました。「絵を続けること」の先生の
心がこもったプレゼントでした。卒業式の時、父ちゃんも
母ちゃんも出席できなかった林さんが、油絵具を
2年にわたるぬくもりを感じました。



ちゅうがっこう へい じゅうがくせい は たいくどう が じやくてい
中学校に入っ めぐさんは 運動がはやくて
たいくどう へい えいがく じょうぎょう 以外 描きませんでした。
体操部に入り 絵は美術の 授業以外 描きませんでした。
さんねんせい のとき びいじゆくろぶ の ぶちやう へいがく へいがくくろぶ
3年生の時 美術クラブの 部長に誘われ 美術クラブに
入り 一年間 絵を描きました。3年生 4人と 美術部顧問の
こうとうせんせい と 一緒におそろい 絵を描きに出かけました。
せんねんせい と 一緒におそろい 絵を描きに出かけました。
4人で 絵を描く 事が 楽しい 一年間でした。



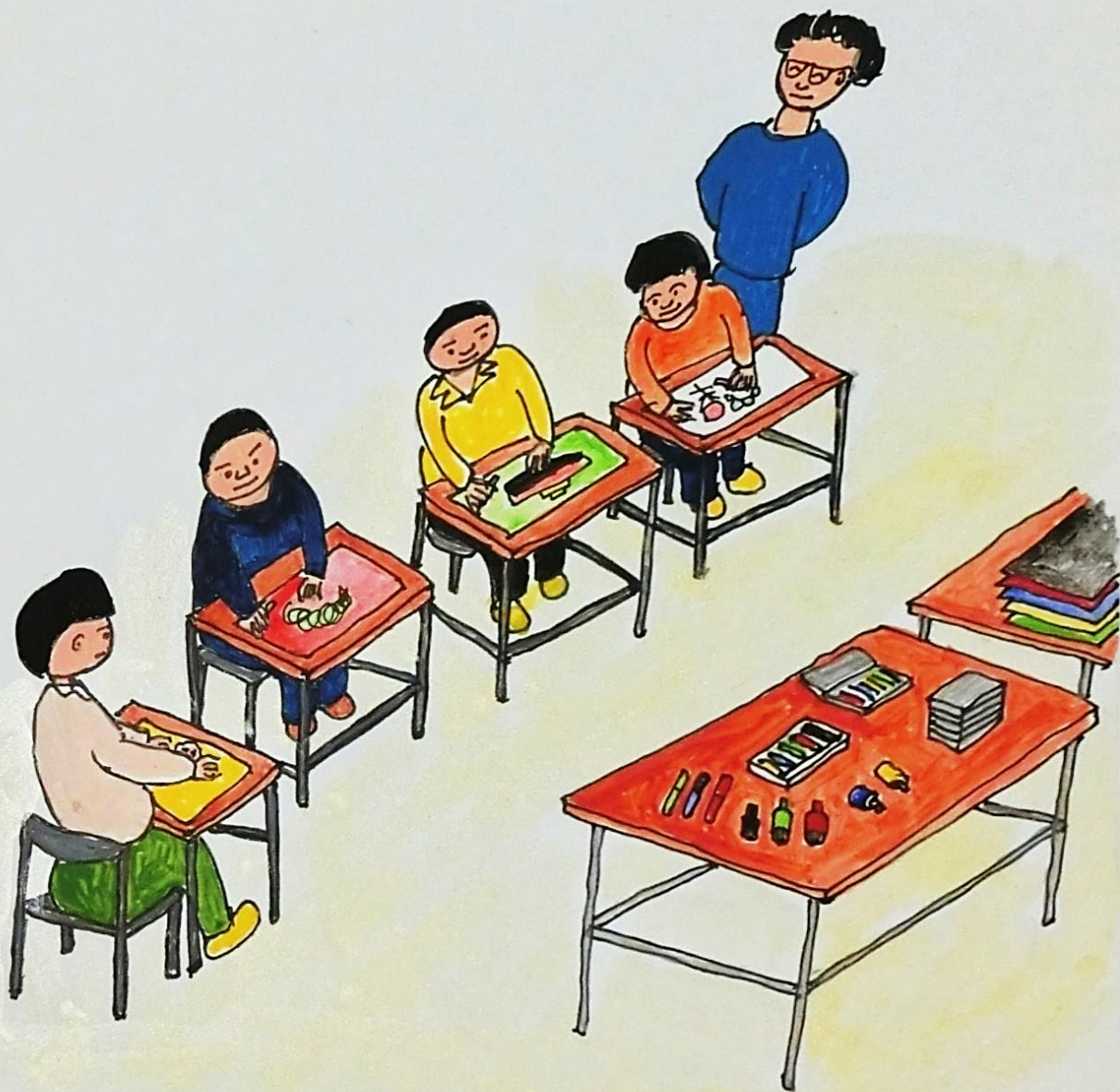
高校^{こうこう}に入^いって ねぐ^{ねぐ}さんは 美術^{びじゆつ}クラブの 部室^{ぶしつ}に
行^いきましたか 3年^{さんねん}生の 部長^{ぶちやう} 1人^{ひとり}しか居^いらず 絵^えも 1人^{ひとり}
描^かくよ^ようなクラブで 全^{ぜん}く 楽^{らく}にな^なか^かた^たので 一^{いっ}学期^{がくき}で
やめ^{やめ}? 二^に学期^{がくき}の 運動^{うんどう}会^{かい}の クラブ^{くらぶ}紹^{しょう}介^{かい}で かつ^{かつ}コ^こ良^よか
つ サッ^さカー^か部^ぶに 入^いり 絵^えは 描^かが な^なく な^なり ました。



社会人となっためぐさんは 絵を描く替わりに
機械設計の図面を書いてました。めぐさんは
この仕事が 好きではありませんでした。26歳の時
おもいきり会社を退職し 障害を持つ児童の
施設の指導員に転職しました。



めぐさんは 施設で 子供達と接するようになって
「めぐさんの名前が『永遠に足跡を残す』と言う意味がある
と言ってくれた 木先生を思い出して 子供達に絵を
描かせるようになりました。自由に伸び伸びと描ける環境
づくりをしました。



子供達が大人になっても絵を描く事を続けました。
途中子供達の絵を使った絵本、それから画集を出版しました。
絵の作品展もずっと続けました。この町で一番良い場所の
美術館で続けました。

アート・フェスティバルや アウトサイド・アート、アール・ブリュット等で
全国的にいや世界的に障害者のアート活動が活発になり
作品が評価されるようになりました。

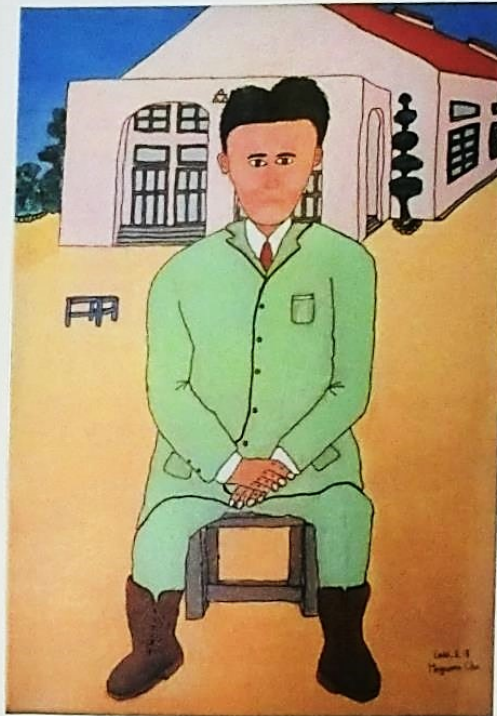


おじさんは 60才環曆になった時 施設取員の現役を
引退する事を伝える為 オ-先生をお宅に訪ねました。
先生は元気で 絵も描き 若し教取員の絵の指導をされてました。
懐かしい話に弾みました。帰り道にオ-先生は1枚の絵を下されました。
「今まで」ご苦労さんと かつての教え子を労らて下しました。
包みを開けて見ると その絵は 小学校卒業前に みんなで 先生に
行って描いた 横河駅に 停まっている 汽車の絵でした。
油絵に仕上げられてました。思い出のある大切な絵をいただき
お別れしました。オ-先生とは この別れが 最後となりました。



めぐさんは退職して自由な時間が増えたので”
小学生時代、^{しうがくせい}木先生と^{きせんせい}楽しい時間を^{たのしみ}過ごした
「絵を描くこと」を始め^{はじ}ました。最初^{さいしょ}に
描いたのが^か木先生の若^{わか}い時の姿^{すがた}でした。

おわり。



付

※1. ^{はなごう}小学校の時 ^と特進になった ^え絵の
^{かねばん}銅版
(^おオ-先生が ^{しんぶん}新聞社からもらってた)



^おオ-先生にもらった
^{あぶら}油絵具
(^{いま}現在も未使用)

※3. ^おオ-先生のお宅に行った時
いたいた ^え描き絵 (F8)



ひあの・リトル物語 ^{その がたり}

(めぐさんの自分史 Ⅲ)



作: ちょうめぐむ

画: MEGUSAN

(この物語はフィクションです)

ひろしまに 山いな 教会が ありました。
普通の家を借りた 教会でした。



メフさんは その小さな教会の 日曜礼拝に 出席していました。
また 又々頭またまたあたまの中学生でした。 貴たかみの部屋みやに 座布団ざぶとんを敷いて
座すわり礼拝らいはいをしました。 足踏式あしふみかのオルガンおるがんを使つかっていました。



ある日、小石教会にアメリカから
ピアノが送られてきました。茶色でした。
同じ時にアメリカから宣教師のビッグサム
も来ました。大きな男の人でした。



その日から 礼拝の時 ビックさんがピアノを弾いて
讃美しました。ビックさんが弾くと ピアノが小さく
見えました。そこで 首んはピアノを「リトル」と
呼ぶようになりました。



それから ^{なにわ}何年か過ぎ ^{マク}マクさんが ^{せいねん}青年になった時
普通の家の教会が ^{やま}山の上に ^{あたら}新しく ^{きり}教会をつくりました。
ピアノの ^{いし}いしも ^{いっしょ}一緒に ^{やま}山の上の ^{きり}教会に ^{いん}引越しました。
山の上から ^め眺めは ^よとても良 ^{まへ}前の ^い普通の家の ^{きり}教会の
屋根が ^み見えました。



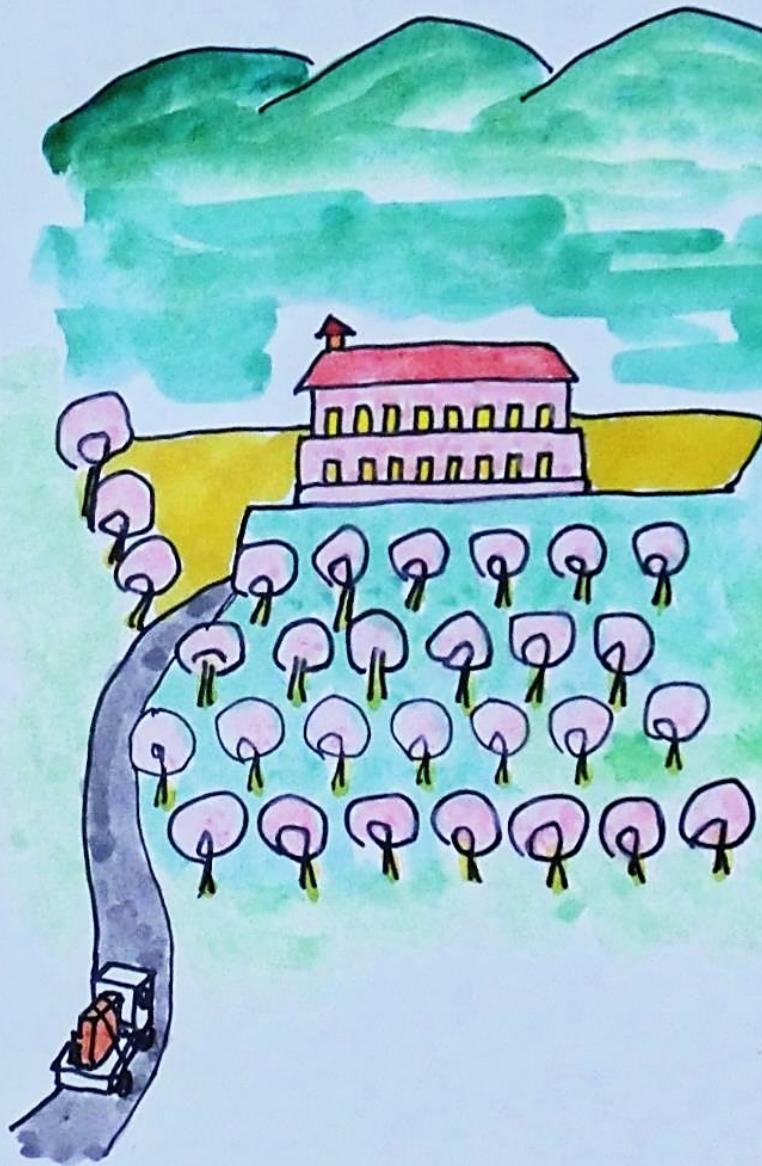
村に聖か 山上の教会は 世に 席に 腰かける様に 石の 十字架は
楽々としていました。それは 足の上の 十字架に 気は して
よく なる、を 示して ます。



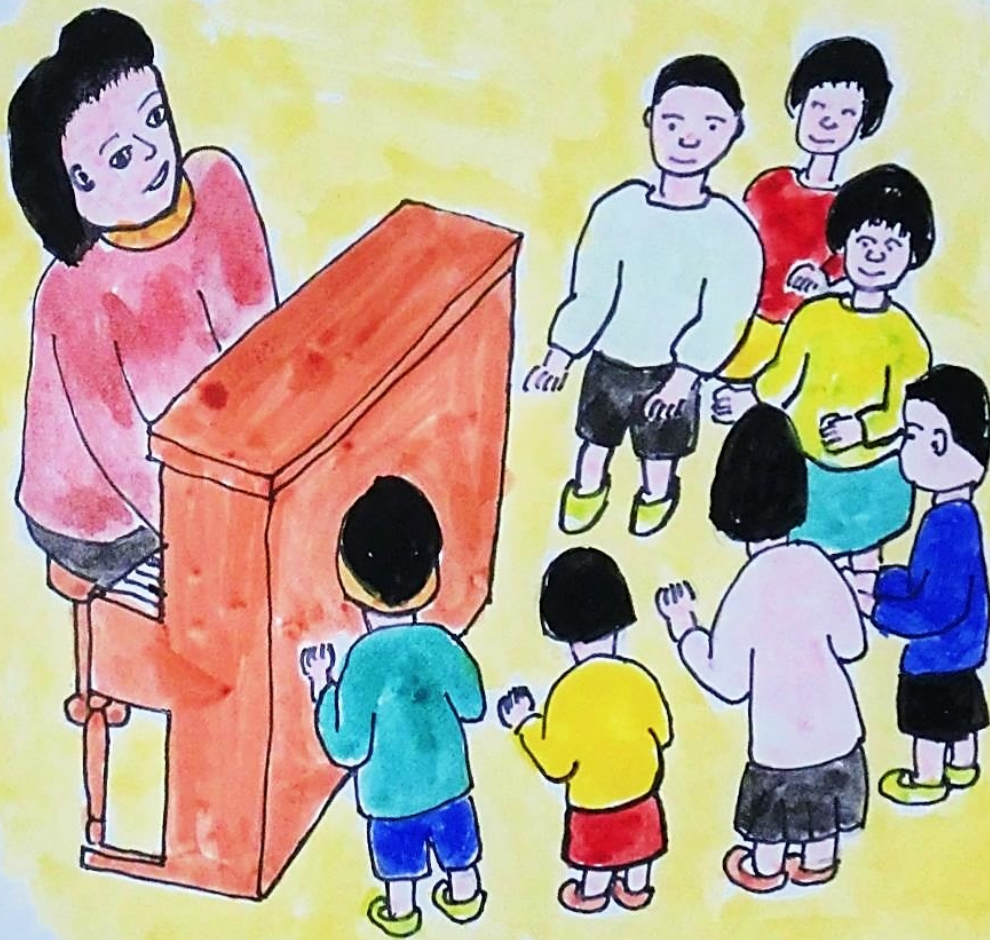
山の上の教会の周りが変化した頃
新しい黒いピアノが山の上の教会にやってきました。
リトルはもう使われなくなりました。



しほくし ^{うま} ^き ^き
11km 行先が 決まりました。
^{とろろ} ^{さし} ^{かほ} ^{こども}
隣町の 海、見える 山の上にある 子供達の
^{しや} ^せ
施設へ 送られて 行きました。



施設で 子供達の歌声と一緒に
おと ね 子供達が
おと ね 音を奏でました。子供達が
おと ね 大なるまで 何れも 活躍しました。



ニヒヤタス おとこ とき しやう ながい こ
子供達が大人になった時 施設に 入る 黒いピアノが
やってきました。 リトヒは 片隅に 片づかされました。



ある日、年をとったリトルは「邪魔になるから」と
壊れた事になりました。その時、復施設に来ていた
一人のおじいさんが壊れた事になったリトルを
自分の家に養って帰りました。そのおじいさんは
あの丸い頭のメグさんでした。メグさんはリトルを
覚えていたのです。今日もメグさんの家の玄関で
年をとったリトルが来るのを迎えてくれています。

つづく



付

ばんどう せりてがら(中)
K07ノ番号と 製作会社



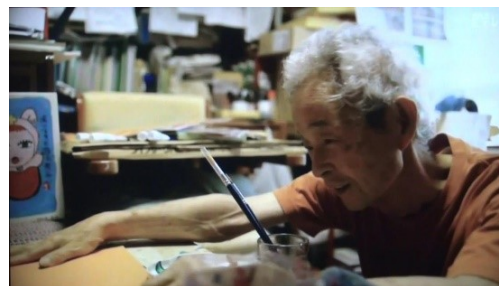
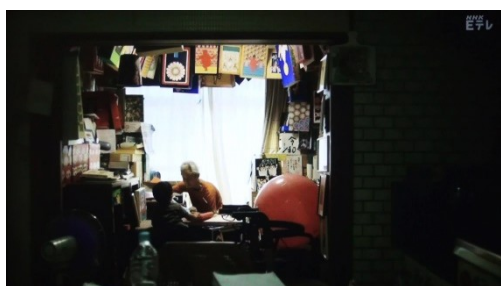
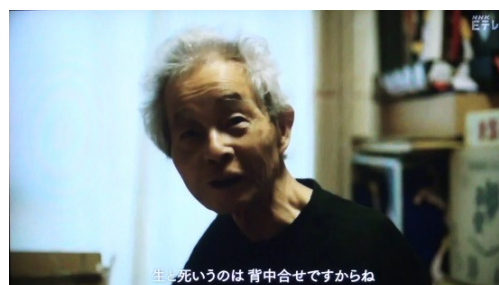
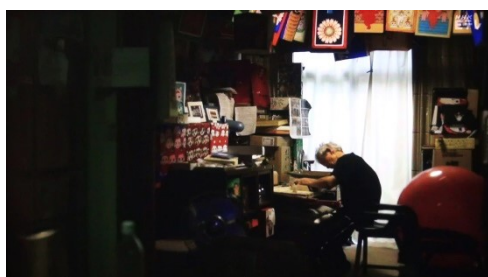


古いピアノを廃棄処分した
我家の玄関にどしどし構えて
来る人を迎えてくれた
私の手で分解処分した
居なくなった場所の
広さを感じ 涙はかき流す
家族の一員を失った気持ちだ。

2020/2/1 NHK Eテレの番組「人知れず表現し続ける者たちⅢ」に出演。
この番組は、絵を描いたり詩を作ったりする方々を追ったドキュメンタリー。
番組では、病気と関わりながらも、絵を描くことに全身全霊で挑む姿勢や、
信仰の証しを力強く語る。



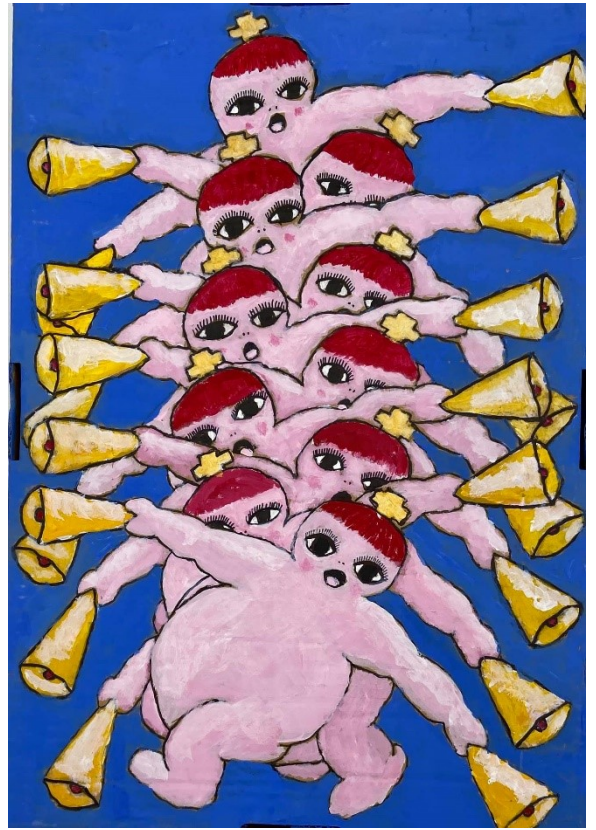
「天子を描く 男の人生」

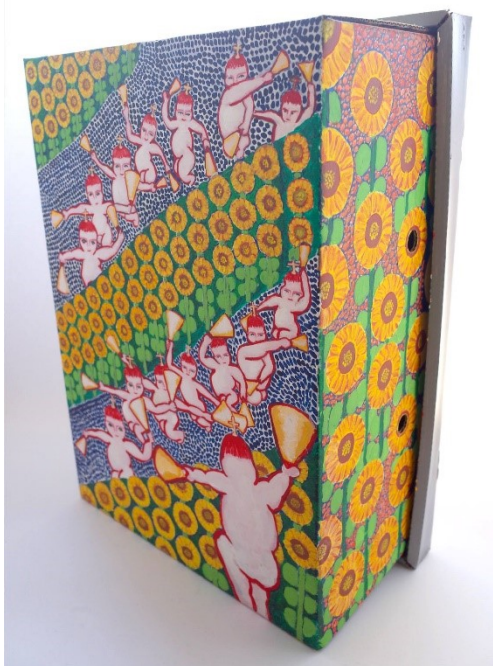


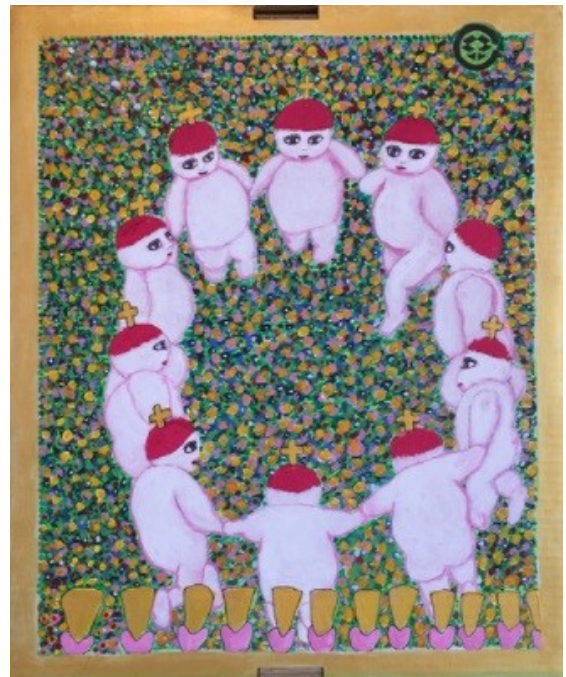


長 惠 作 品 集

別 冊

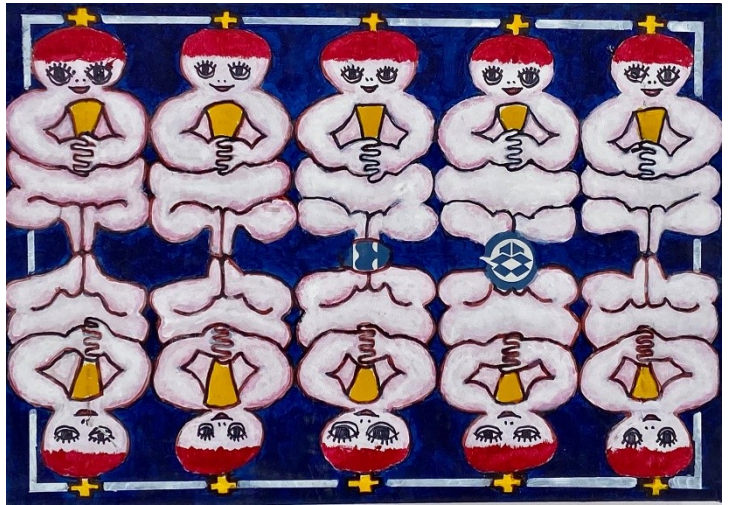








天子とばらとひまわり





苺の中でハンドベル







長 恵 作 品 集 別 冊
2021年10月1日 発行